Nikon

デジタル一眼レフカメラ

D50

使用説明書

この使用説明書について

この使用説明書は、使用目的や操作の習熟度に応じて、前から後ろへと順番に読み進めていただく構成になっています。

「カメラまかせで気軽に撮影したい！」なら

「すべての機能を使いこなしたい！」なら

はじめに（P.1～17）
カメラの各部名称や撮影の前に必要な準備について説明しています。

【基礎編】撮影と再生（P.18～30）
撮影から再生まで、カメラの基本的な操作について説明しています。

【応用編】撮影（P.36～61）
露出などを変更して、より本格的な撮影を楽しむための操作について説明しています。

【応用編】再生（P.62～84）
撮影した画像の再生や、パソコン、プリンターなどと接続する方法について説明しています。

【設定編】カメラの基本設定（P.85～95）
メモリーカードの初期化やカメラに内蔵されている時計の設定など、カメラの基本的な設定をする方法について説明しています。

【設定編】撮影・再生についての設定、カスタムメニュー（P.96～131）
より詳細な設定について説明しています。

付録（P.132～176）
カメラの基本データなどの資料や索引があります。困ったときは「故障かな？と思ったら」「警告メッセージ」をご覧ください。

はじめに

【基礎編】 撮影と再生

【応用編】
撮影
再生

【設定編】
カメラの基本設定
～セットアップメニュー

撮影についての設定
～撮影メニュー

再生についての設定
～再生メニュー

さらに細かい設定
～カスタムメニュー

付録

目次

安全上のご注意 iv

はじめに 1

お使いになる前に 1
各部の名称 3
カメラ本体 3
表示パネル 6
ファインダー 7
撮影モードダイヤル 8
撮影の準備 9
レンズを取り付ける 9
バッテリーを充電してカメラに入れる 10
日付と時刻を設定する 12
SDメモリーカード（別売）をカメラに入れる 14
ファインダー内の見え方を調節する 17

【基礎編】 撮影と再生 18

AUTO（オート）で撮影する――カメラまかせの簡単撮影 18
ステップ1：電源をONにする 18
ステップ2：撮影モードを AUTO（オート）にする 19
ステップ3：カメラを構える 20
ステップ4：ピントを合わせて撮影する 21
シーンに合わせて撮影する――簡単操作でより美しく 24
人物をもっときれいに 25
風景をより美しく 25
子供の表情をいきいきと 25
迫力のスポーツ写真を 26
花や虫を大きく接写 26
夜景をバックに記念撮影 26
連写（連続撮影）する 27
セルフタイマーやリモコンを使って撮影する 28
撮影した画像を確認する 30
画像を削除する 30

応用編について 31

メニューの操作方法 32

【応用編】 撮影 36

画質や画像のサイズを変更する 36
ピントを合わせる領域（エリア）を指定する 40
ピントを手動（マニュアル）で合わせる 43
内蔵フラッシュの設定を変更する 44
ISO感度を設定する 48
撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で撮影する 49
撮影モードを設定する 49
露出補正 57
仕上がり設定 58
ホワイトバランス 59
最初の設定に戻す（ツーボタンリセット） 61

【応用編】 再生 62

画像を再生する......62
画像を保護する――プロテクト......67
画像を削除する......68
画像をテレビで見る......69
画像をパソコンに転送する......71
画像をプリンターで印刷する......75

【設定編】 いろいろな設定 85

カメラの基本設定――セットアップメニュー......85
カードフォーマット......86
日時設定......86
ビデオ出力......87
画像コメント......88
記録フォルダー設定......90
クリーニングミラーアップ......93
ファームウェアバージョン......95
メニュー表示切換......86
画面の明るさ......87
言語......87
USB設定......89
連番モード......92
ダストオフデータ取得......93
姿勢情報記録......95
撮影についての設定――撮影メニュー......96
仕上がり設定......97
画質モード......99
ホワイトバランス......100
ノイズ除去......99
画像サイズ......99
ISO設定......105
再生についての設定――再生メニュー......106
削除......108
縦位置自動回転......109
プリント指定......111
再生フォルダー設定......108
スライドショー......110
スモールピクチャー......111
さらに細かい設定――カスタムメニュー......112

付録 132

撮影モード別：設定できる機能一覧......132
撮影モード別：初期設定一覧......134
別売アクセサリー......137
カメラとレンズのお手入れ......149
カメラと付属品の取り扱い上のご注意......152
故障かな？と思ったら......154
警告メッセージ......159
資料集......162
主な仕様......165
索引......172
アフターサービスのご案内......177

カメラの各種設定をご購入時の状態に戻すには：ツーボタンリセット（P.61）とカスタムメニュー「R：リセット」（P.113）の両方を行ってください

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。

⚠**危険**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
⚠**警告**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠**注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告（カメラとレンズについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

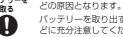
感電したり、破損部でケガをする原因となります。

バッテリー、電源を抜いて、ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

バッテリーを取る

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかにバッテリーを取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

バッテリーを取り出す際、やけどに充分注意してください。

バッテリーを抜いて、ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

⚠ 警告 （カメラとレンズについて）

使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと

事故の原因となります。

発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。

特に乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。

保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

ストラップが首に巻き付かないようにすること

特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

使用禁止

AC アダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

警告

指定のバッテリーまたは専用 AC アダプターを使用すること

指定以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意 （カメラとレンズについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

保管注意

製品は幼児の手の届かないところに置くこと

ケガの原因になることがあります。

保管注意

使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。

移動注意

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。

使用注意

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと

本機器が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与えるおそれがあります。病院で使う際も、病院の指示に従ってください。

禁止

プラグを抜く

長期間使用しないときは電源（バッテリーや AC アダプター）を外すこと

バッテリーの液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

発光禁止

内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと

やけどや発火の原因となることがあります。

⚠ 注意
（カメラとレンズについて）

禁止

本機器やACアダプターは布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと

内部の部品に悪影響を与え、火災の原因となることがあります。

禁止

同梱のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと

機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼす場合があります。

⚠ 危険
（専用リチウムイオンバッテリーについて）

禁止

バッテリーを火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

バッテリーをショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと

ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。

持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。

使用禁止

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3aは、D50に対応しています。EN-EL3aに対応していない機器には使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

危険

バッテリーからもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告
（専用リチウムイオンバッテリーについて）

保管注意

バッテリーは幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめること

液もれ、発熱の原因となります。

警告

バッテリーをリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービスセンターやリサイクル協力店へご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

⚠ 警告
（専用リチウムイオンバッテリーについて）

警告

バッテリーからもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因になります。

⚠ 注意
（専用リチウムイオンバッテリーについて）

注意

バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。

⚠ 警告
（クイックチャージャーについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

バッテリーを取る

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること

そのまま使用すると火災の原因になります。

使用禁止

雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

禁止

電源コードを傷つけたり加工したりしないこと

また、重いものを載せたり、加熱したり、引っ張ったり、無理に曲げたりしないこと

電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。

感電注意

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと

感電の原因になることがあります。

⚠ 注意
（クイックチャージャーについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

放置注意

製品は幼児の手の届かないところに置くこと

ケガの原因になることがあります。

⚠ 危険
（リモコン用リチウム電池について）

危険

電池からもれた液が目に入った時はすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告
（リモコン用リチウム電池について）

禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

電池をショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

電池に表示された警告・注意を守ること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

使用説明書に表示された電池を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。

保管注意

電池は幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

禁止

充電式電池以外は充電しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

電池を廃棄する時はテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

警告

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

はじめに

お使いになる前に

ニコンデジタル一眼レフカメラD50をお買い上げくださいまして、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、D50での撮影を楽しむためにお役立てください。

このカメラには、この使用説明書のほか、以下の説明書が付属しています。これらの説明書もあわせてよくお読みください。

簡単操作ガイド

撮影の方法と、撮影した画像をパソコンに転送する手順を、簡単に説明しています。

PictureProject（ピクチャープロジェクト）ソフトウェア使用説明書（CD-ROMに収録）

付属のソフトウェア「PictureProject」の使用説明書です。
撮影した画像をパソコンに転送できるほか、パソコン上で画像を調整したり、見やすく整理したりすることができます。

カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。
http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

表記について

- SD メモリーカードを「メモリーカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。

商標説明

- Microsoft® および Windows® は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh®、Mac OS、QuickTime は米国およびその他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
- Adobe、Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標または特定地域における同社の登録商標です。
- Pentium は米国インテル社の登録商標です。
- PictBridge ロゴは商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、バッテリーチャージャー、AC アダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合せでお使いください。

- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●保証書とカスタマー登録カードについて

この製品には「保証書」と「カスタマー登録カード」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入 1 年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

- カスタマー登録は下記のホームページからも行えます。

https://reg.nikon-image.com

●あらかじめご承知いただきたいこと

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビの近くでお使いになると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しくお取り扱いください。

●カメラやメモリーカードを譲渡／廃棄するときのご注意

メモリーカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には消去されません。譲渡／廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーカードを譲渡／廃棄する際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去するか、初期化後にメモリーカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。なお、プリセットホワイトバランスの画像（P.103）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡／廃棄してください。メモリーカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

各部の名称

カメラ本体

ひとつのボタンに複数の役割がある場合は、カッコ内に記載しています。

カメラ本体（つづき）

AE-L AF-L AE/AFロックボタン：P.41、125、127
視度調節レバー：P.17
ファインダー接眼窓：P.7、17、20
コマンドダイヤル：P.53～55、62～66
接眼目当て：P.17
メモリーカードカバー：P.14、16
単写／連写ボタン：P.27（設定リセット：P.61）
再生ボタン：P.30、62
MENU メニューボタン：P.32
サムネイルボタン：P.65（ISO 感度：P.48）
ヘルプ／プロテクトボタン：P.32、67（WB ホワイトバランス：P.60）
ENTER 実行ボタン：P.35（QUAL 画質：P.38）（拡大：P.66）
バッテリーカバー：P.11
バッテリーカバー開閉ノブ：P.11
液晶モニター：P.30、32
リセットスイッチ：P.154
三脚ネジ穴
メモリーカードアクセスランプ：P.14、16、22
削除ボタン：P.30、68
AE-L AF-L
MENU
ISO
WB
QUAL
ENTER
Nikon
CARD

ヒント **レンズについて**

この使用説明書ではレンズについて、AF-S DX 18～55mm f/3.5～5.6G EDを例に説明しています。他のレンズについては、レンズの使用説明書をご覧ください。

焦点距離目盛

ズームリング：P.20

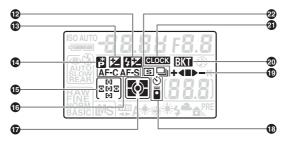
レンズ着脱指標：P.9

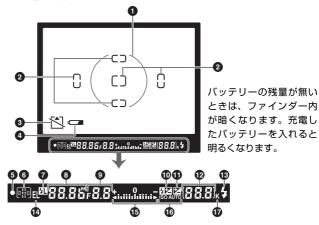
CPU信号接点：P.138

フォーカスリング：P.43

A-M切り換えスイッチ：P.19、43

表示パネル（説明のため、すべての表示を点灯させています）

1 シャッタースピード............P.49～55
露出補正値.....................................P.57
調光補正値.....................................P.47
ISO感度...P.48
2 ISO感度表示..................................P.48
感度自動表示....................P.118、119
3 バッテリー残量表示.......................P.18
4 フラッシュモード..........................P.44
5 画質モード.....................................P.37
6 画像サイズ.....................................P.38
7 ホワイトバランスモード................P.59
8 撮影可能コマ数..............................P.19
連写可能コマ数..............................P.27
ホワイトバランスプリセットデータ
取得モード表示.........................P.101
PC接続中表示................................P.71
9 1000コマ以上補助表示..................P.7
10 電子音表示...................................P.113
11 絞り値.................................P.49～55
PC接続中表示................................P.73

12 調光補正表示..................................P.47
13 露出補正表示..................................P.57
14 プログラムシフト表示...................P.52
15 フォーカスエリア表示...........P.20、40
AFエリアモード表示..................P.115
16 AFモード表示.............................P.114
17 測光モード..................................P.124
18 セルフタイマー／
リモコンモード表示.......................P.28
19 オートブラケティンググラフ.....P.120
20 オートブラケティング表示.........P.120
21 時刻未設定表示....................P.12、159
22 単写／連写モード表示....................P.27

ファインダー（説明のため、すべての表示を点灯させています）

1	中央測光エリア……P.124
2	フォーカスエリア……P.20、40
3	カード無し表示……P.14、159
4	バッテリー残量表示……P.18
5	ピント表示……P.21、43、159
6	フォーカスエリア表示……P.20、40 AFエリアモード表示……P.115
7	FVロック表示……P.127
8	シャッタースピード……P.49～55
9	絞り値……P.49～55
10	調光補正表示……P.47
11	露出補正表示……P.57
12	撮影可能コマ数……P.19 連写可能コマ数……P.27 ホワイトバランスプリセットデータ取得モード表示……P.101 露出補正値……P.57 調光補正値……P.47 PC接続中表示……P.71、73
13	レディーライト……P.23
14	AEロック表示……P.125
15	露出インジケーター……P.56 露出補正インジケーター……P.57
16	感度自動表示……P.118、119
17	1000コマ以上補助表示……P.7

ヒント 1000コマ以上補助表示

撮影可能コマ数が1000コマ以上あるときに点灯します。たとえば1260コマ撮影できるときは、右のように表示されます。

ヒント 電源OFF時の表示

電源がOFFのときも、バッテリーが入っていれば、表示パネルには撮影可能コマ数が表示されます。

撮影モードダイヤル

撮影モードを切り換えるときに使います。撮影モードは全部で11種類あります。

応用撮影向けの撮影モード

シャッタースピードや絞りなどを自分で決めて、より本格的な撮影を楽しむことができます。

P　：プログラムオート（P.52）
S　：シャッター優先オート（P.53）
A　：絞り優先オート（P.54）
M　：マニュアル（P.55）

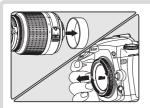
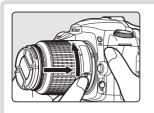
かんたん撮影向けの撮影モード（デジタルイメージプログラム）

撮影シーンに合わせて撮影モードを選び、シャッターボタンを押すだけの簡単な操作で、撮影を楽しむことができます。

AUTO：オート（P.18）	：ポートレート（P.25）
：風景（P.25）	：こどもスナップ（P.25）
：スポーツ（P.26）	：クローズアップ（P.26）
：夜景ポートレート（P.26）	

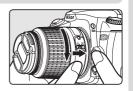
撮影の準備

レンズを取り付ける

カメラ内部にほこりなどが入らないようにご注意ください。

1 レンズの裏ぶたとカメラのボディーキャップを外す

2 カメラの**電源がOFFになっていることを確認してから**、レンズを取り付ける

- レンズとカメラの着脱指標を合わせながらレンズを差し込み、矢印の方向に回してください。カチッと音がするところまで回すと、取り付けは完了です。

レンズを取り外すときは

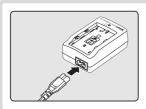
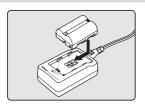
カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し、引き抜いてください。取り外した後は、カメラとレンズにそれぞれのキャップを取り付けてください。

✔ 絞りリングのあるレンズについてのご注意

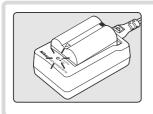
絞りリングのあるレンズを取り付ける場合は、最小絞り（最大値）にして、ロックしてください。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

ヒント ストラップの取り付け手順

バッテリーを充電してカメラに入れる

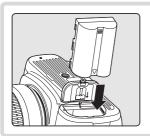
付属のバッテリー EN-EL3aとクイックチャージャー MH-18a（充電器）の組み合わせでお使いください。

1.バッテリーを充電する

1.1 クイックチャージャーと電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む

1.2 バッテリーをクイックチャージャーに取り付ける

- バッテリーは端子カバーを外してから、左図のように、正しい向きで取り付けてください。
- 「CHARGE」ランプが点滅し、充電が始まります。

1.3 「CHARGE」ランプが点滅から点灯に変わると、充電は完了です

- バッテリーを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使い切ったバッテリーを充電するには、およそ135分かかります。

2.バッテリーをカメラに入れる

2.1 電源がOFFになっていることを確認してから、カメラ底面のバッテリーカバーを開ける

2.2 充電したバッテリーを入れ、バッテリーカバーを閉じる

- 左図のように、正しい向きで入れてください。

バッテリーを取り出すときは

バッテリーをカメラから取り出す前に、必ず**電源がOFFになっていることを確認してください**。取り外したバッテリーには、ショートを防止するため、必ず付属の端子カバーを取り付けてください。

✓ バッテリーとクイックチャージャーの使用上のご注意

- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(P.iv～viii)、「カメラと付属品の取り扱い上のご注意」(P.152～153) をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは0～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。充電は室温 (5～35℃) で行ってください。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。
- バッテリーをカメラやクイックチャージャーから取り外しておくときは、付属の端子カバーを取り付けてください。
- クイックチャージャーに付属の電源コードは、他の機器に接続しないでください。この電源コードは国内専用です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。詳しくはニコンサービスセンターにお問い合わせください。

日付と時刻を設定する

カメラの内蔵時計を合わせます。ご購入後、はじめて電源をONにしたときは、ステップ7からお進みください（日時設定が完了するまで、撮影や他の設定はできません）。一度設定した日時を再調整する場合は、ステップ1からお進みください。

1 電源をONにして、MENU ボタンを押す

- カメラ背面の液晶モニターに、左のような画面が表示されます。

2 カメラ背面にあるマルチセレクターの◀を1回押す

- 左のように、画面の左側にあるアイコン（絵文字）部分が黄色で表示されます。

3 ▲または▼で アイコンを選ぶ

- 左のように、 アイコンが黄色で表示されます。

4 ▶を押す

- 左のように、文字の部分が黄色で表示されます。

5

▲または▼で「**日時設定**」を選ぶ

- 左のように、「**日時設定**」が黄色で表示されます。

6

▶を押す

- 左の画面が表示されます。

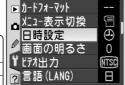
7

カメラ背面にあるマルチセレクターの▲または▼で「年」を合わせる

8

残りの数値を合わせる

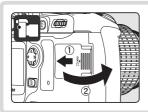
- ▶を押すと、「**月**」を変更できるようになります。以下、それぞれの項目について、ステップ**7**と同じようにして日付や時刻を合わせてください。

9

ENTER ボタンを押す

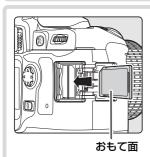
- 設定が有効になり、メニュー画面に戻ります(はじめて電源をONにしたときは、液晶モニターが消灯し、撮影できる状態になります)。

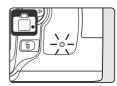
SDメモリーカード（別売）をカメラに入れる

このカメラは、撮影した画像をメモリーカードに記録します。メモリーカードは付属していないため、別途お買い求めください。

1.メモリーカードを入れる

1.1 電源がOFFであることを確認し、メモリーカードカバーを開ける

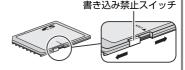
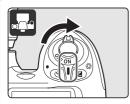
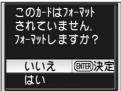
- メモリーカードを抜き差しするときは、必ず電源をOFFにしてください。

おもて面

1.2 メモリーカードを入れる

- 左図のように正しい向きで、カチッと音がするまで挿入してください。
- メモリーカードが正しく挿入されると、メモリーカードアクセスランプが約1秒間点灯します。

- 挿入後、メモリーカードカバーを閉めてください。

ヒント SDメモリーカードの書き込み禁止スイッチ

SDメモリーカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや消去が禁止され、カード内の画像を保護できます。撮影時や、画像を削除するときは「Lock」を解除してください。

書き込み禁止スイッチ

1.3 電源をONにする

- 液晶モニターが点灯せず、表示パネルに撮影可能コマ数が表示された場合は、挿入したメモリーカードでそのまま撮影できます。
- 液晶モニターに左のような画面が表示された場合は、メモリーカードを初期化する必要があります。下の「2. メモリーカードを初期化する」へお進みください。

2. メモリーカードを初期化（フォーマット）する

メモリーカードを初期化すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前に、パソコンなどに保存してください。なお、メモリーカードをカメラから抜くときは、その前に必ず電源をOFFにしてください。

2.1

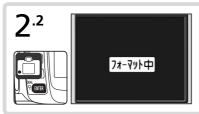
液晶モニターに左の画面が表示されたら、カメラ背面にあるマルチセレクターの▼を押して、「**はい**」を選ぶ

✓ メモリーカードがロックされている場合のご注意

メモリーカードの書き込み禁止スイッチ（前ページ参照）がロックされている場合は、液晶モニターなどに警告が表示されます。ロックを解除してからもう一度挿入してください。

✓ パソコンでメモリーカードを初期化した場合のご注意

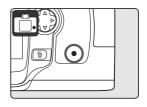
パソコンで初期化したメモリーカードをそのままD50で使うと、データの記録速度が低下する場合があります。D50で初期化しなおしてからお使いください。

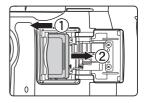
2.2

ENTER ボタンを押す

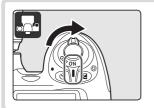
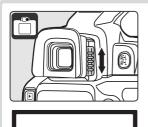
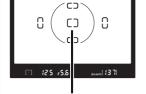
- 初期化が始まります。初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。

2.3 初期化が完了すると、液晶モニターが消灯します。

メモリーカードを取り出すときは

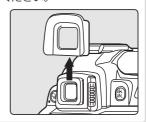
1 メモリーカードアクセスランプが消灯していることを確認してください。

2 **電源をOFFにしてから**、メモリーカードカバーを開けてください。

3 カードを奥に押し込むと (①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください (②)。

ファインダー内の見え方を調節する

撮影するときは、ファインダーをのぞきながら構図を決めます。あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

1 レンズの前キャップを取り外し、電源をONにする

フォーカスエリア

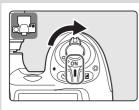
2 視度調節レバーで調節する

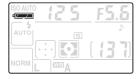
- ファインダーをのぞきながら視度調節レバーを上下に動かし、フォーカスエリアの枠線が最もはっきり見えるように調節してください。
- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意下さい。
- 視度調節レバーを操作しにくい場合は、いったん接眼目当てを取り外してください。

【基礎編】撮影と再生

AUTO（オート）で撮影する―カメラまかせの簡単撮影

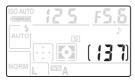
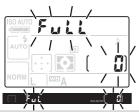
撮影モード AUTO（オート）は、シャッターボタンを押すだけの簡単な操作で、さまざまな状況での撮影を楽しむことができます。以下のステップ1～4の手順で撮影してください。

※ 表示パネルとファインダー内下部のイラストは、説明に関係ある部分だけを強調し、直接関係が無い部分は色を薄くしています。実際にはすべて同じ色で表示されます。

ステップ1：電源をONにする

1.1 電源をONにする

- レンズの前キャップを外してください。
- 表示パネルとファインダー内下部の表示が点灯します。
- 撮影時には、液晶モニターは点灯しません。

1.2 バッテリーの残量を確認する

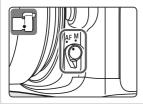
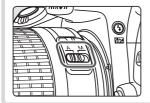
バッテリー残量の表示

表示パネル	ファインダー	意味
（満）	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
（減）	表示なし	バッテリーが減り始めました。
（少）	（少）	バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
（点滅）	（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換してください。

1.3 メモリーカードの残量を確認する

- 表示パネルとファインダー内下部に、カードの残量（これから撮影できるコマ数）が表示されます。

- カードの残量がなくなると、左のように表示されます。不要な画像を削除するか、別のカードに交換してください。

ステップ2：撮影モードを AUTO（オート）にする

2.1 カメラ上面の撮影モードダイヤルを AUTO（オート）に合わせる

2.2 カメラ前面のフォーカスモードダイヤルを**AF**（オートフォーカス）に合わせる

2.3 レンズのA-M切り換えスイッチを**A**（オートフォーカス）に合わせる

ステップ3：カメラを構える

3.1 カメラをしっかりと構える

ヒント カメラの構え方

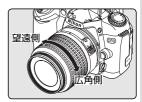
- 右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- わきを軽く締めます。
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。
- 縦長（縦位置）の画像を撮影したいときは、左図のようにカメラを縦にして構えます。

フォーカスエリア

3.2 構図を決める

- ファインダーをのぞきながら、構図を決めてください。
- 5つあるフォーカスエリアの少なくとも1つに、被写体が重なるようにしてください。

ヒント ズームレンズの使い方

被写体を大きく写したいときはズームリングを望遠側に、広い範囲を写したいときはズームリングを広角側に回してください。

ステップ4：ピントを合わせて撮影する

ピント表示

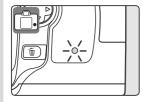
4.1 シャッターボタンを半押し（下記ヒント参照）する

- フォーカスエリアに重なっている被写体のうち、手前にある被写体に自動的にピントが合います。
- ピントが合うと、「ピピッ」という電子音が鳴り、ファインダー内下部のピント表示●が点灯します。また、ファインダー内で、ピントを合わせたフォーカスエリアが強調して表示されます。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントは固定されます。
- 暗い場所などでは、AF補助光ランプが光る場合や、内蔵フラッシュがポップアップ（上がる）する場合があります。

ヒント シャッターボタンの半押し

シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しするとピントが合い、半押しを続けている間、そのピントで固定されます。そのまま深く押し込むと、シャッターがきれます。

半押しすると、ピントが固定

そのまま深く押し込んで撮影

4.2 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む

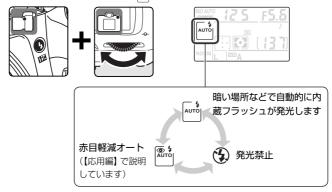
- シャッターがきれ、画像がメモリーカードに記録されます。液晶モニターに、記録中の画像が表示されます。
- メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、以下の操作は**絶対に**行わないでください。
  - ・**電源をOFFにする**
  - ・**メモリーカードやバッテリーを取り出す**

ヒント 内蔵フラッシュについて

撮影モード AUTO では、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると、自動的に内蔵フラッシュがポップアップ（上がる）します。内蔵フラッシュの調光範囲（光が充分に届く距離）は、約0.6～7.5mです。これより近くや遠くにある被写体を撮影する場合は、フラッシュの効果が充分に得られないので、ご注意ください。また、フラッシュ撮影時には、レンズフードを取り外してください。

- ファインダー内下部に ϟ が点灯しているときは、シャッターボタンを押し込むと、内蔵フラッシュが発光します。ϟ が点灯していないときは、内蔵フラッシュの充電中のため、撮影できません。ϟ が点灯するまでお待ちください。なお、内蔵フラッシュがポップアップしても、その後被写体が明るくなった場合などはフラッシュは発光しません。この場合は、ϟ が点灯しなくても撮影することができます。
- 内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。内蔵フラッシュを使わないときは、収納しておいてください。

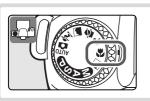
内蔵フラッシュを使わずに撮影したいときは

カメラ前面の ϟ ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのフラッシュモード表示が変化します。Ⓧ（発光禁止）にすると、内蔵フラッシュは発光しなくなります。内蔵フラッシュが自動的に発光する設定に戻すには、同じ操作で、フラッシュモード表示を AUTO にしてください。

シーンに合わせて撮影する—簡単操作でより美しく

撮影するシーンが決まっているときは、シーンに合わせて以下の6種類から撮影モードを選ぶだけで、美しく撮影できます。

撮影モードを選ぶ以外は、AUTO と同じ操作で撮影できます。

ダイヤルの位置	撮影モード	こんなときに
	ポートレート	人物を撮影したい
	風景	風景を撮影したい
	こどもスナップ	子供を撮影したい
	スポーツ	運動会などのスポーツ写真を撮影したい
	クローズアップ	小さなものを大きく撮影したい
	夜景ポートレート	夜景をバックに人物を撮影したい

撮影の手順

1 撮影モードダイヤルを回して、撮影モードを設定する

2 シャッターボタンを押して撮影する

人物をもっときれいに：（ポートレート）モード

人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。

- フォーカスエリアに重なっている被写体のうち、手前にある被写体にピントが合います。
- 被写体と背景が離れているときや、望遠レンズを使って撮影したときは、背景がぼけて立体感のある画像になります。

風景をより美しく：（風景）モード

自然の風景や街並み、夜景などを、色鮮やかに撮影したいときに使います。

- フォーカスエリアに重なっている被写体のうち、手前にある被写体にピントが合います。
- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

子供の表情をいきいきと：（こどもスナップ）モード

子供の撮影に向いています。肌の色を美しく表現すると同時に、服装や背景も鮮やかに仕上げます。

- フォーカスエリアに重なっている被写体のうち、手前にある被写体にピントが合います。

ヒント　内蔵フラッシュについて

撮影モード 、、、 では、被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵フラッシュがポップアップ（上がる）します。内蔵フラッシュを使って撮影する方法は、撮影モード AUTO と同じです。

迫力のスポーツ写真を：（スポーツ）モード

運動会などスポーツ写真の撮影に向いています。動きのある被写体の一瞬の動きを鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げます。

- ファインダー中央の被写体にピントが合います。
- シャッターボタンを半押ししている間、被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。
- ピントが合っても、電子音は鳴りません。
- 内蔵フラッシュとAF補助光ランプは光りません。

花や虫を大きく接写：（クローズアップ）モード

草花や昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写したいときに使います。

- ファインダー中央の被写体にピントが合います。
- 手ぶれしやすいので、三脚をお使いになることをおすすめします。

夜景をバックに記念撮影：（夜景ポートレート）モード

夕景や夜景をバックに、人物を撮影したいときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

- フォーカスエリアに重なっている被写体のうち、手前にある被写体にピントが合います。
- 手ぶれしやすいので、三脚をお使いになることをおすすめします。

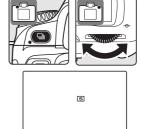
連写（連続撮影）する

連写（連続撮影）モードにすると、シャッターボタンを押している間、約2.5コマ／秒（最高）で連写できます。

単写（1コマ撮影）モードと連写モードの違いは以下の通りです。

モード	説明
[S] **単写**（初期設定）	シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影し、メモリーカードに記録します。
▭ **連写**（連続撮影）	シャッターボタンを押している間、約2.5コマ/秒（最高）で連写します。

単写と連写の切り換え方法

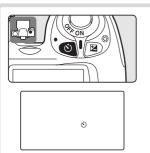
カメラ背面（左上）にある ▭ ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの単写／連写モード表示が変化します。設定したいモードに合わせてください。

ヒント **連写コマ数の表示**

シャッターボタンを半押しまたは押し続けている間、表示パネルとファインダー内下部に、続けて連写できる残りコマ数が表示されます。

セルフタイマーやリモコンを使って撮影する

記念写真など、自分も一緒に写りたいときは、セルフタイマーや別売のリモコン（ML-L3）をお使いください。

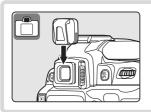
1 三脚などでカメラを固定する

- リモコンは、カメラから5m以内の距離でお使いください。

2 ボタンを押して、撮影方法（セルフタイマーまたはリモコン）を選ぶ

- ボタンを押すたびに、表示パネルのセルフタイマー／リモコンモード表示が変化します。下の表を参考に、設定したいモードに合わせてください。

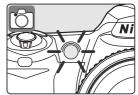
3 構図を決める

セルフタイマー／リモコンモード表示のアイコンの意味

アイコン	モード	説明
―（表示無し）	**通常撮影**	セルフタイマーやリモコンを使わずに撮影します。
	セルフタイマー	シャッターボタンを押し込むとタイマーが作動し、約10秒後に撮影します。
	2秒リモコン	リモコンの送信ボタンを押すと、2秒後に撮影します。
	瞬時リモコン	リモコンの送信ボタンを押すと、すぐに撮影します。

4 付属のアイピースキャップを、左図のように取り付ける

- ファインダーから余計な光が入り、露出がずれることを防ぎます。

5 撮影をはじめる

- **セルフタイマー撮影の場合**：シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、深く押し込みます。
  タイマーが作動し、AF補助光ランプが点滅します。撮影２秒前になると点灯に変わります。

- **リモコン撮影の場合**：リモコンの送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押します。

6 シャッターがきれます

- セルフタイマー撮影の場合は10秒後、リモコン撮影の場合は2秒後または瞬時にシャッターがきれます。

ヒント **セルフタイマー／リモコンモードの設定方法**

セルフタイマー／リモコンモードは、(セルフタイマーボタン) ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回して設定することもできます。

撮影した画像を確認する

撮影した画像は、カメラ背面の液晶モニターに表示されます。

撮影した画像は、液晶モニターに自動的に表示されます。画像が表示されていないときは、ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

- カメラ背面にあるマルチセレクターの◀または▶を押す（またはコマンドダイヤルを回す）と、ほかの画像を見ることができます。

- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

画像を削除する

液晶モニターに画像が表示されている状態でボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。

- もう一度ボタンを押すと、表示中の画像が削除されて、再生画面に戻ります。
- 削除するのをやめたいときは、マルチセレクターのいずれかの方向など、以外のボタンを押してください。

応用編について

ここから【応用編】に入ります。【基礎編】をひと通りマスターしたら、さらに高度な撮影や、撮影した画像のプリントなどに挑戦してみましょう。

やりたいこと	参照先
画像の大きさや画質を変えたい	画質モード：P.37 画像サイズ：P.38
特定の場所にピントを合わせたい ピントを自分で合わせたい	フォーカスエリアの選択：P.40 マニュアルフォーカス：P.43
暗い場所で撮影したい フラッシュの設定を変更したい	フラッシュモード：P.44 フラッシュ調光補正：P.47 ISO設定：P.48
シャッタースピードと絞りをカメラまかせにして、気軽に撮影したい	撮影モードP（プログラムオート）：P.52
動きの速い被写体をとらえたい 被写体の動きを強調したい	撮影モードS（シャッター優先オート）：P.53
背景の奥行きやぼかし方を調整したい	撮影モードA（絞り優先オート）：P.54
シャッタースピードと絞りを自分で設定したい	撮影モードM（マニュアル）：P.55
画像を明るく／暗くしたい	露出補正：P.57
画像の色を見た目と合わせたい 特殊な照明の下で撮影したい	ホワイトバランス：P.59
撮影した画像をカメラで確認したい	P.62
撮影した画像をパソコンに転送したい	P.71
撮影した画像をプリントしたい	P.75

メニューの操作方法

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、おもにメニューを使います。

メニューを表示するには

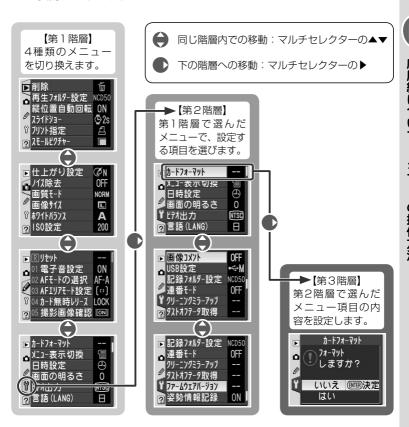
MENUボタンを押すと、液晶モニターに下のようなメニューが表示されます。

メニューの種類

以下の4種類のメニューがあります。どのメニューが表示されているかは、画面左端のアイコンで確認できます。

メニュー	内容
再生メニュー（P.106）	撮影した画像に対する操作や、再生についての設定などを行ないます。
撮影メニュー（P.96）	撮影についての設定を行います。
カスタムメニュー（P.112）	カメラの各種設定を、好みに合わせて変更します。
セットアップメニュー（P.85）	メモリーカードの初期化や、カメラの基本的な設定などを行ないます。

メニューの構造

メニューは下図のような階層構造になっています。メニューの操作順序は、
①4種類のメニューを切り換え、
②それぞれのメニューからメニュー項目を選び、
③その項目を設定する、
という流れになります。

• 各階層に複数のページがある場合や、第3階層より下の階層がある場合もあります。

メニュー項目の設定

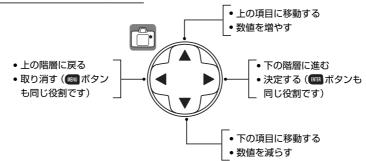
メニューの操作には、マルチセレクターを使います。

マルチセレクターの使い方

メニュー項目の設定方法

1 メニューの表示

MENU ボタンを押して、メニューを表示します。

2 メニューの切り換え ①

マルチセレクターの◀を押すと、画面左側のアイコンが黄色で表示されます。

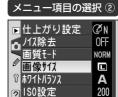
3 メニューの切り換え ②

▲または▼を押すたびに、再生、撮影、カスタム、セットアップの各メニューが切り替わります。設定したいメニューを選んでください。

▲または▼を押すたびに、4種類のメニューが切り替わります。どのメニューが表示されているかは、アイコンで確認できます。

4　メニュー項目の選択 ①

▶を押すと、3で選んだメニュー内のメニュー項目を選べる状態になります。

5　メニュー項目の選択 ②

▲または▼を操作して、設定したいメニュー項目を選びます。

6

▶を押すと、5で選んだメニュー項目が表示されます。

7　メニュー項目の設定 ②

▲または▼を押して、設定する内容を選びます。

8　メニュー項目の設定 ③

▶を押すと、設定が有効になり、5の画面に戻ります。

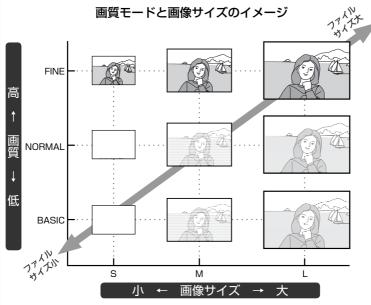
- 撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示され、選ぶことができません。
- 画像の削除やメモリーカードの初期化など、重要な設定項目については、マルチセレクターの▶ではなく、ENTER ボタンを押して決定する場合があります。この場合は、画面にしたがって ENTER ボタンを押してください。
- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押しします（液晶モニターが消灯します）。

画質や画像のサイズを変更する

操作方法： MENU ボタン → 撮影メニュー → 画質モード
MENU ボタン → 撮影メニュー → 画像サイズ

メモリーカードに記録する画像の、画質（画像データの圧縮率）と画像サイズを変更します。画像の用途や、メモリーカードの残量に合わせて設定してください。

一般的に、画質が高く、画像サイズが大きいほど、画像データのファイルサイズは大きくなります。より精細な画像を大きくプリントすることができますが、メモリーカードに記録できるコマ数は少なくなります。

画質モードと画像サイズのイメージ

関連データ

1枚のメモリーカードで撮影できるコマ数 → 「付録―資料集」（P.162）

画質モード

画質モードは、以下の５種類から選べます。

画質モード		ファイル形式	説明
RAW	高	NEF	撮影した画像をパソコンで加工する場合などに適しています。撮像素子の生データを圧縮して記録します。
FINE	↑	JPEG	「NORMAL」よりも精細な画像になります。画像データは約1/4に圧縮されます。
NORMAL （初期設定）	画質	JPEG	通常はこの画質モードで撮影します。画像データは約1/8に圧縮されます。
BASIC	↓ 低	JPEG	ファイルサイズが最も小さく、電子メールに添付する場合などに適しています。画像データは約1/16に圧縮されます。
RAW+ BASIC		NEF+ JPEG	RAWとBASICの、２種類の画像を同時に記録します。

画質モードの設定は、表示パネルで確認できます。

✅「RAW」についてのご注意

- 画像サイズは設定できません。表示パネルにも画像サイズは表示されません。
- パソコンでRAW画像ファイルを開くには、PictureProjectまたは別売のNikon Capture 4（Ver.4.3以降）（P.148）が必要です。この際、画像サイズは「**L**」と同じ大きさになります。

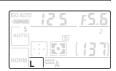
✅「RAW+BASIC」についてのご注意

- カメラでの再生時には、BASIC画像だけが表示されます。
- BASIC画像をカメラで削除すると、RAW画像も同時に削除されます。
- BASIC画像の画像サイズは「**L**」に固定され、変更できません。

画像サイズ

画像サイズは、以下の３種類から選べます。プリントしたい大きさなどに合わせて設定してください。

画像サイズ		画像ファイルの大きさ	プリント時の大きさ（出力解像度200dpiの場合）
L（初期設定）	大	3008×2000ピクセル	約38×25cm
M	サイズ	2256×1496ピクセル	約29×19cm
S	小	1504×1000ピクセル	約19×13cm

画像サイズの設定は、表示パネルで確認できます。

ヒント コマンドダイヤルでの設定方法

画質モードと画像サイズは、コマンドダイヤルで変更することもできます。

液晶モニターが消灯しているときに、ENTER（QUAL）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの画質モード・画像サイズ表示が変化します。設定したい画質モード・画像サイズに合わせてください。

ヒント **ファイル名について**

このカメラで撮影した画像には、DSC_nnnn.xxxという名前が付けられます。

DSC_nnnn.xxx

ファイル名：nnnnには撮影順に、0001～9999の数字が入ります。

拡張子：画質モードによって異なります。

- RAWの場合：「NEF」
- FINE、NORMAL、BASICの場合：「JPG」
- ダストオフデータ（P.93）の場合：「NDF」

- RAW+BASICで撮影した場合、同じファイル名で、拡張子が「NEF」（RAW画像）と「JPG」（BASIC画像）の2つのファイルが同時に作成されます。
- **再生メニュー**の「**スモールピクチャー**」（P.111）で作成したスモールピクチャーのファイル名は「SSC_nnnn」、拡張子は「JPG」となります。
- **撮影メニュー**の「**仕上がり設定**」→「**カスタマイズ**」→「**カラー設定**」（P.98）を「**モードII（AdobeRGB）**」にした場合は、ファイル名が「_DSCnnnn」（スモールピクチャーの場合は「_SSCnnnn」）となります。

ピントを合わせる領域（エリア）を指定する

操作方法： マルチセレクター

このカメラには、５つのフォーカスエリア（自動でピント合わせを行う領域）があります。初期設定では、カメラが自動的に選んだフォーカスエリア、または中央のフォーカスエリアでピント合わせを行いますが、構図を工夫して撮影したいときなどには、特定のフォーカスエリアを選ぶことができます。

フォーカスエリアを選ぶには

1 カスタムメニュー「**3：AFエリアモード設定**」（P.115）を、「**シングル**」または「**ダイナミック**」にする

- 撮影モード AUTO、、、、 の初期設定は「**至近優先ダイナミック**」なので、設定の変更が必要です。

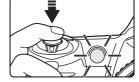
2 液晶モニターが消灯しているときに、マルチセレクターの▲▼◀▶でフォーカスエリアを選ぶ

- 選んだフォーカスエリアは、ファインダー内で強調して表示されます（ファインダー内が暗い場合は、赤く光ります）。
- 表示パネルとファインダー内下部にも、選んだフォーカスエリアが表示されます。

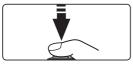
さらに高度な設定

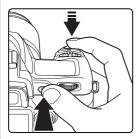
フォーカスエリアの選び方を変更する　→　3：AFエリアモード設定（P.115）
フォーカスエリア照明のON/OFFを設定する　→　8：フォーカスエリア照明（P.117）

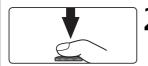
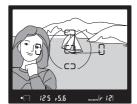
ヒント AF補助光について

被写体が暗い場合などにシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのために、AF補助光が自動的に点灯します。ただし、撮影モードが ［風景］、［スポーツ］ のときや、カスタムメニュー「**7：内蔵AF補助光**」(P.117) が「**OFF**」のときは、AF補助光は点灯しません。

- 使用できるAFレンズの焦点距離は24～200mm、AF補助光が届く距離の目安は約0.5～3mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

ヒント フォーカスロック撮影

ピントを合わせたい被写体が5つのフォーカスエリアに入らない場合や、オートフォーカスが苦手な被写体 (P.155) を撮影する場合には、以下のようにピントを固定（フォーカスロック）して撮影します。フォーカスロック撮影を行うときは、カスタムメニュー「**3：AFエリアモード設定**」(P.115) を「**シングル**」か「**ダイナミック**」に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体に中央のフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うと、ファインダー内下部にピント表示●が点灯します。シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。これを「フォーカスロック」といいます。

シャッターボタンの半押しを続ける代わりに、AE-L/AF-L ボタンでフォーカスロックを維持することもできます。

シャッターボタンを半押ししてピントが合った状態で、AE-L/AF-L ボタンを押すと、ピントが固定されます。AE-L/AF-L ボタンを押し続けている間、フォーカスロックが維持されます。

2 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを深く押し込んで撮影します。

- 被写体との距離は変えないでください。

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

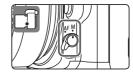
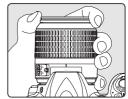
シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを深く押し込みます。連写モード (P.27) のときは、AE-L AF-L ボタンでフォーカスロックを行い、AE-L AF-L ボタンを押したまま、もう一度シャッターボタンを押します。

さらに高度な設定

AE-L AF-L ボタンの機能を変更する → 14：AE/AFロックボタン (P.127)

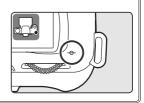
ピントを手動（マニュアル）で合わせる

ピントを手動（マニュアル）で合わせたいときや、オートフォーカスではピントが合わないとき、またはマニュアルフォーカスレンズ使用時には、フォーカスモードダイヤルを**M**にすると、マニュアルでピント合わせが行えます。

- ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体が鮮明に見えるように合わせます。
- A-M切り換え方式のレンズを取り付けるときは、レンズ側の設定もMにしてください。M/A（マニュアル優先オートフォーカス）モード機能付きのレンズを装着するときは、レンズ側はM/AまたはMのどちらの設定でもマニュアルフォーカスが可能です。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

ヒント フォーカスエイド

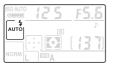
開放絞り値がf/5.6以上の明るいレンズ（絞りの最も小さい数値がf/5.6以下のレンズ）を使ってマニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内下部のピント表示●でピントが合っているかどうかを確認できます。

ヒント 距離基準マーク

距離基準マーク -⊖- は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。

内蔵フラッシュの設定を変更する

操作方法： ボタン ＋ コマンドダイヤル

撮影状況に合わせて、内蔵フラッシュの発光方式（フラッシュモード）を変更します。

フラッシュモードの見方

フラッシュモードは表示パネルに表示されます。表示の見方は以下の通りです。なお、発光禁止のときは が表示されます。

：赤目軽減発光

人物撮影に適しています。フラッシュが発光する前に、AF補助光ランプが点灯して、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減します。

AUTO：自動発光

暗いときや逆光のときに、自動的に内蔵フラッシュがポップアップ（上がる）し、必要に応じて発光します。
この表示が無いフラッシュモードでは、フラッシュを発光させたいときに、 ボタンを押して内蔵フラッシュをポップアップさせる必要があります。

SLOW：スローシャッター

夜景などの撮影に適しています。背景をきれいに写すために、自動的にシャッタースピードが遅くなります。

REAR：後幕発光

動いている被写体の後方に流れる光などを表現したい場合などに適しています。シャッターが閉じる直前にフラッシュが発光します。
この表示が無いフラッシュモードでは、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光します。

AUTO
SLOW
REAR

撮影モードとフラッシュモードの関係

フラッシュモードは、撮影モードによって以下のように異なります。

撮影モード AUTO、、、

通常発光オート

赤目軽減オート

発光禁止

撮影モード

通常発光オート＋スローシャッター

赤目軽減オート＋スローシャッター

発光禁止

撮影モードP、A

通常発光

後幕発光＋スローシャッター※

通常発光＋スローシャッター

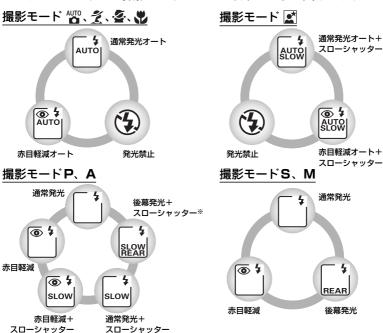
赤目軽減＋スローシャッター

赤目軽減

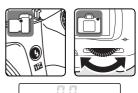
撮影モードS、M

通常発光

後幕発光

赤目軽減

※ コマンドダイヤルでフラッシュモードを操作している間は、**SLOW**の文字は表示されません。

フラッシュモードの設定方法

ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのフラッシュモード表示が、撮影モードに応じた内容で変化します。設定したいフラッシュモードに合わせてください。

内蔵フラッシュを使って撮影するには

撮影モード AUTO、、、、

あらかじめフラッシュモードを設定してから、シャッターボタンを半押しすると、必要に応じて自動的に内蔵フラッシュがポップアップ（上がる）し、発光します。

撮影モードP、S、A、M

ボタンを押して内蔵フラッシュを手動でポップアップ（上がる）させ、フラッシュモードを設定します。測光モードや露出を決定してから、撮影してください。

内蔵フラッシュの収納

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。バッテリーの消耗を防ぐため、フラッシュを使わないときは常に収納してください。

内蔵フラッシュについてのご注意

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、被写体から60cm以上離れてください。
- 内蔵フラッシュ撮影が可能なレンズは、焦点距離が18～300mmのCPUレンズと、焦点距離が18～200mmの非CPUレンズです。詳しくは「付録―別売アクセサリー」（P.141）をご覧ください。フラッシュの光がさえぎられることがあるので、レンズフードは外してください。また、マクロ付きズームレンズのマクロ領域ではお使いになれません。
- 内蔵フラッシュ撮影時は、連写モード（P.27）に設定しても、連写はできません。
- 内蔵フラッシュを連続して使うと、発光部を保護するため、一時的に発光が制限され、シャッターがきれなくなる場合があります。少し時間をおくと再び使えるようになります。

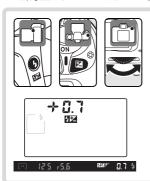
関連ページ

別売スピードライト（フラッシュ）を使って撮影する　→　別売アクセサリー（P.142）

さらに高度な設定

フラッシュの発光量を固定して撮影する　→　FVロック（P.127）
フラッシュ撮影時のISO感度を自動制御させる　→　10：感度自動制御（P.119）
内蔵フラッシュをマニュアル発光させる　→　16：内蔵フラッシュ発光（P.129）

フラッシュ調光補正（撮影モードP、S、A、Mで設定可能）

フラッシュの発光量を補正することができます。発光量を多くしてメインの被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。

⚡（⚡±）ボタンと ⊠ ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回すと、左下図のように表示パネルとファインダー内下部の補正量表示が変化（1/3段または1/2段刻みで＋１段〜－３段）します。設定したい補正量に合わせてください。

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内下部に調光補正マーク ⚡± が表示されます。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。電源をOFFにしても、補正量の設定はリセットされません。

関連ページ

カスタムメニューで調光補正を行う → 6：フラッシュ調光補正（P.116）

さらに高度な設定

調光補正量の刻み幅を変更する → 11：露出値ステップ幅（P.120）

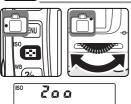
関連データ

内蔵フラッシュの発光制御について → 「付録—資料集」（P.163）

ISO感度を設定する

操作方法：MENU ボタン → 撮影メニュー → ISO設定

暗い場所で撮影するときは、シャッタースピードが遅くなり手ぶれしやすくなりますが、ISO感度を標準（ISO200相当）よりも高くすれば、シャッタースピードが速くなり、手ぶれしにくくなります。ISO感度はISO200～1600相当の間で、1段刻みで設定できます。

ヒント コマンドダイヤルでの設定方法

ISO感度は、コマンドダイヤルを使って変更することもできます。

液晶モニターが消灯しているときに（ISO）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのISO感度表示が変化します。設定したいISO感度に合わせてください。

ヒント ISO感度とは

フィルムカメラで使うフィルムのISO感度に相当します。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。このため、暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的ですが、一方で、撮影した画像が多少ざらつく場合があります。

「ISO設定」についてのご注意

撮影モード AUTO、、、、、、 では、カメラが自動的にISO感度を決める（初期設定）ため、「**ISO設定**」は選べません。ISO感度を自分で設定したい場合は、カスタムメニュー「**9：感度自動設定**」（P.118）を「**ON**」から「**OFF**」に変更してください。

撮影モードP、S、A、Mで撮影する

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**では、シャッタースピードや絞りを自分で設定できるほか、ホワイトバランスなどを変更して、さらに高度な撮影を楽しむことができます。

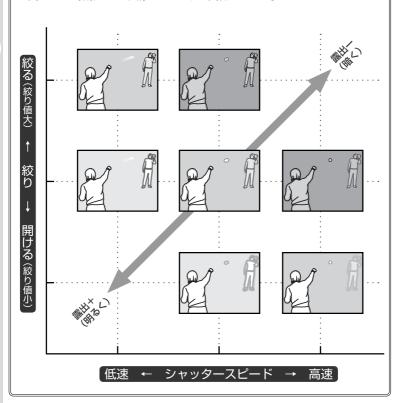
撮影モードを設定する

操作方法： 撮影モードダイヤル

撮影の意図に応じて、シャッタースピードと絞りのそれぞれを自分で設定するか、カメラまかせにするかによって、以下の４つの撮影モードを使い分けてください。

P	**プログラムオート**	シャッターチャンスを逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞りの両方をカメラが自動制御します。
S	**シャッター優先オート**	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードだけを自分で設定し、絞りはカメラが自動制御します。
A	**絞り優先オート**	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞りだけを自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M	**マニュアル**	シャッタースピードと絞りの両方を自分で設定します。長時間露光（バルブ）撮影も、このモードで行います。

ヒント 露出とは

シャッタースピードと絞りを調整して、画像が意図した明るさ（露出）で撮影されるようにすることを、「露出を合わせる」といいます。同じ露出の画像でも、シャッタースピードと絞りの組み合わせによって、撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合などが変わってきます。以下の図は、シャッタースピードや絞りを変えると、撮影される画像がどのように変化するかを示しています。

撮影モードP、S、A、Mについてのご注意

- CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングは、必ず最小絞り（最大値）にセットしてください。
- 非CPUレンズは、撮影モード**M**でだけ、お使いになれます。絞りの設定や確認はレンズの絞りリングで行ってください。カメラの露出計はお使いになれません。詳しくは「別売アクセサリー：装着できるレンズ」（P.138）をご覧ください。
- 次の警告が表示パネルやファインダー内下部に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

  HI: 被写体が明るすぎます。ISO感度を高く設定している場合は、低くしてください。ISO感度を変更しても表示が消えない場合は、別売のND（光量調節用）フィルターをお使いください。

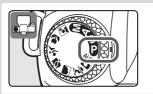
  Lo: 被写体が暗すぎます。ISO感度を低く設定している場合は、高くしてください。ISO感度を変更しても表示が消えない場合は、フラッシュをお使いください。

さらに高度な設定

露出値の刻み幅を変更する　→　11：露出値ステップ幅（P.120）
露出を自動的に変えながら連続撮影する　→　12：オートブラケティング（P.120）
露出を固定して撮影する　→　AEロック撮影（P.125）

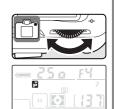
【応用編】撮影　撮影モードP・S・A・Mで撮影する

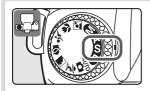
P：プログラムオートでの撮影方法

被写体の明るさに応じて、露出が適正になるようにカメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。シャッターチャンスを逃したくないスナップなど幅広い撮影に適しています。

1 撮影モードダイヤルを**P**に合わせます。

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

ヒント　プログラムシフト

撮影モード**P**で撮影中にコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク P* が点灯します。解除するには、プログラムシフトマーク P* が消灯するまでコマンドダイヤルを回してください。

S：シャッター優先オートでの撮影方法

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。

1 撮影モードダイヤルを**S**に合わせます。

2 コマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部のシャッタースピード表示が変化します。設定したいシャッタースピード（30秒～1/4000秒）に合わせてください。

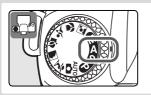
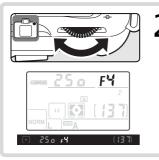
3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

ヒント 手ぶれを防ぐには

手ぶれ（手の振動によって画像がぶれること）を防ぐには、一般的にシャッタースピードを「1÷（装着しているレンズの焦点距離）」秒より高速側にします。たとえば300mmレンズの場合、シャッタースピードを1/300秒より高速にすると、手ぶれをある程度防ぐことができます。このほか、以下の方法で手ぶれを軽減することもできます。

- ISO感度（P.48）を上げる
- 内蔵フラッシュ（P.44）や別売スピードライト（P.142）を使う
- 三脚を使う
- VR（手ぶれ補正）レンズを使う

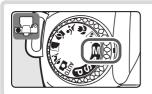
A：絞り優先オートでの撮影方法

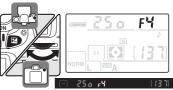
絞りを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）ことによって、近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したり、絞りを開く（絞り値を小さくする）ことによって草花や人物の背景をぼかして撮影するなど、背景のぼかし方を調節して撮影する場合に適しています。

1 撮影モードダイヤルを**A**に合わせます。

2 コマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部の絞り値表示が変化します。設定したい絞り値に合わせてください。

- 設定できる最小絞り、開放絞りはレンズによって異なります。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

M：マニュアルでの撮影方法

シャッタースピードと絞りの両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露光（バルブ、P.56）で撮影する場合にもこの撮影モードを使います。

1 撮影モードダイヤルを**M**に合わせます。

2 ファインダー内下部の露出インジケータ（P.56）を確認しながら、シャッタースピードと絞り値を設定します。

- コマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部のシャッタースピード表示が変化します。設定したいシャッタースピード（bulb または30秒～1/4000秒）に合わせてください。bulb は長時間露光撮影（P.56）のときに使います。
- ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、表示パネルとファインダー内下部の絞り値表示が変化します。設定したい絞り値に合わせてください。
- シャッタースピードと絞り値は、どちらを先に設定しても構いません。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

ヒント 長時間露光について

撮影モード**M**でシャッタースピードを bulb にすると、長時間露光（バルブ）撮影ができます。シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。

シャッターボタンを押す代わりに、別売のリモコンを使うこともできます。シャッタースピードを bulb にしてから、2秒または瞬時リモコンモード（P.28）にすると、シャッタースピードの表示が - - に変わります。この状態でリモコンの送信ボタンを押すと、2秒後または瞬時にシャッターが開き、もう一度押すと閉じます（ただしシャッターは、開いてから30分たつと、自動的に閉じます）。

約1秒よりも低速のシャッタースピードで撮影した場合は、ノイズによって多少ざらついた画像になります。このノイズは、あらかじめ「**撮影メニュー**」→「**ノイズ除去**」（P.99）を「**する**」にしておくことで低減できます。また、長時間露光で撮影する場合は、撮影中のバッテリー切れを防ぐため、あらかじめバッテリーをフル充電しておくか、別売のACアダプター EH-5をお使いになることをおすすめします。

ヒント 露出インジケーターについて

設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差がファインダー内下部に表示されます。この「露出インジケーター」の見方は以下のとおりです（表示内容はカスタムメニュー「**11：露出値ステップ幅**」（P.120）の設定によって変化します）。

「露出値ステップ幅」が1/3段のとき	「露出値ステップ幅」が1/2段のとき
適正露出 +. . 0 . .−	適正露出 +. . . 0 . . .−
1/3段アンダー +. . 0 . .−	1/2段アンダー +. . . 0 . . .−
2段以上オーバー +. . 0 . .−	3段以上オーバー +. . . 0 . . .−

- 被写体が明るすぎて、または暗すぎてカメラの測光範囲を超えた場合は、露出インジケーターが点滅します。
- 長時間露光（バルブ）撮影時と非CPUレンズ使用時は、露出インジケーターは表示されません。

露出補正（撮影モードP、S、Aで設定可能）

操作方法： ボタン＋コマンドダイヤル

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることで、画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、カスタムメニュー「**13：測光モード**」（P.124）を「**中央部重点測光**」または「**スポット測光**」にすると効果的です。

露出補正の方法

ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回すと、表示パネルの露出補正表示が変化（1/3段または1/2段刻みで±5段）します。設定したい補正量に合わせてください。

- 被写体を明るくしたい場合は＋側に、暗くしたい場合は－側に補正するのが基本です。
- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。
- ボタンを押すと、表示パネルのほかファインダー内下部でも、下のように補正量が確認できます。

－0.3段補正

＋2段補正

仕上がり設定

操作方法： MENU ボタン → 撮影メニュー → 仕上がり設定

記録する画像の仕上がり（色の鮮やかさや輪郭の強調度合いなど）を、撮影シーンや好みに合わせて設定します。

仕上がり設定は、以下の８種類から選ぶことができます。

N	**標準** （初期設定）	標準的な画像に仕上げます。ほとんどの撮影状況に対応できます。
VI	**鮮やかに**	彩度を高め、赤・緑・青の各色を鮮やかに表現します。ややコントラストが高く、シャープな画像になります。
SH	**シャープに**	被写体の輪郭を強調して、シャープな画像になります。
SF	**ソフトに**	被写体の輪郭をソフトに再現します。人物の肌をなめらかに表現したいときや、撮影後にパソコン上で画像を加工したいときに適しています。
DP	**ダイレクトプリント**	ダイレクトプリント（P.76）できれいにプリントされるように仕上げます。
PO	**人物きれい**	人物撮影に適しています。コントラストを抑え、肌の質感や立体感を自然に仕上げます。
LA	**風景きれい**	風景撮影に適しています。全体をシャープに仕上げ、植物の緑や青空などを鮮やかに表現します。
	カスタマイズ （P.97）	仕上がりを自分で細かく設定することができます。

☑「カスタマイズ」以外の仕上がり設定についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- 画像の色空間は「sRGB」になります。
- 充分な効果を得るには、GタイプまたはDタイプのレンズ（P.138）をお使いになることをおすすめします。

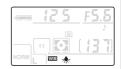
ホワイトバランス

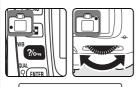
操作方法：MENU ボタン → 撮影メニュー → ホワイトバランス

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定の**A**（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

ホワイトバランスは以下の８種類から選ぶことができます。

A	**オート** （初期設定）	カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。
	電球	白熱電球の下での撮影に適しています。
	蛍光灯	白色蛍光灯の下での撮影に適しています。
	晴天	晴天の屋外での撮影に適しています。
	フラッシュ	内蔵フラッシュや別売スピードライトを使って撮影する場合に適しています。
	曇天	曇り空の屋外での撮影に適しています。
	晴天日陰	晴天の日陰での撮影に適しています。
PRE	**プリセット** (P.100)	自分で選んだ被写体を基準にホワイトバランスを合わせたり、すでに撮影した画像と同じホワイトバランスに合わせることができます。

ホワイトバランスの設定は、表示パネルで確認できます。

ヒント　コマンドダイヤルでの設定方法

ホワイトバランスは、コマンドダイヤルで変更することもできます。

液晶モニターが消灯しているときに、（**WB**）ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのホワイトバランス表示が変化します。設定したいホワイトバランスに合わせてください。

WB

さらに高度な設定

ホワイトバランスを変えながら撮影する　→　12：オートブラケティング（P.120）

最初の設定に戻す（ツーボタンリセット）

操作方法： ボタン＋ ボタン

カメラの撮影に関する設定を初期状態に戻すことができます。 ボタンと ボタン（それぞれのボタンに緑色の●印がついています）を同時に約2秒間押すと、表示パネルがいったん消灯してから再点灯し、各機能が以下の初期設定状態に戻ります。

項目		初期設定
単写／連写モード（P.27）		単写
セルフタイマー／リモコンモード（P.28）		解除
画質モード（P.37）		NORMAL
画像サイズ（P.38）		L
フォーカスエリア（P.40）		中央
フラッシュモード（P.44）		
撮影モード	AUTO	通常発光オート
撮影モード		通常発光オート＋スローシャッター
撮影モード	**P S A M**	通常発光

項目		初期設定
ISO設定（P.48）		200
プログラムシフト（P.52）		解除
露出補正（P.57）		解除（0.0）
仕上がり設定（P.58）		標準
ホワイトバランス（P.59）		オート
AEロック（P.125）		解除
FVロック（P.127）		解除
カスタムメニュー	**6：フラッシュ調光補正**（P.116）	解除
カスタムメニュー	**12：オートブラケティング**（P.120）	OFF
カスタムメニュー	**13：測光モード**（P.124）	マルチパターン測光

関連ページ

初期設定について → 付録 撮影モード別：初期設定一覧（P.134）

【応用編】再生

画像を再生する

撮影した画像は、液晶モニターで再生することができます。再生方法には、画像を１コマずつ再生する「１コマ表示モード」と、複数の画像を一覧表示する「サムネイル表示モード」の２種類があります。

画像を１コマずつ再生する（１コマ表示モード）

▶ ボタンを押すと、液晶モニターに、最後に撮影した画像が表示されます。

- 縦位置で撮影された画像は、右のように縦位置で再生されます。

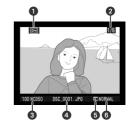
１コマ表示モードでの操作方法

前後の画像を見る	◀ ▶ または（コマンドダイヤル）	マルチセレクターの◀を押す（またはコマンドダイヤルを左に回す）と前の画像が、▶を押す（右に回す）と次の画像が表示されます。
画像情報の表示	▲ ▼	表示中の画像についての詳しい情報が表示されます（P.63）。
画像を拡大する	ENTER（🔍）	表示中の画像が拡大表示されます（P.66）。
画像を削除する	🗑	表示中の画像を削除します（P.68）。
画像を保護する	?/On	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（P.67）。
複数画像を一覧表示する	⊞	サムネイル表示モード（P.65）に切り替わります。
撮影に戻る	シャッターボタンの半押しまたは ▶	液晶モニターが消灯します。
メニューに移る	MENU	メニュー（P.32）が表示されます。

画像情報の表示

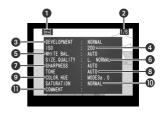
1コマ表示モードでは、マルチセレクターの▲または▼を押すと、以下のように表示内容が切り替わり、画像についての詳しい情報を見ることができます。

標準表示

1 プロテクト表示 ……… P.67
2 画像の番号／全画像数
3 フォルダ名 ……… P.90
4 ファイル名 ……… P.39
5 画像サイズ ……… P.38
6 画質モード ……… P.37

撮影情報1

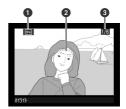
1 プロテクト表示 ……… P.67
2 画像の番号／全画像数
3 カメラ名
4 撮影日 ……… P.12
5 撮影時刻 ……… P.12
6 測光モード ……… P.124
7 シャッタースピード ……… P.50
8 絞り値 ……… P.50
9 撮影モード、露出補正値 ……… P.8、57
10 焦点距離 ……… P.5
11 フラッシュモード ……… P.44

撮影情報2

1 プロテクト表示 P.67
2 画像の番号／全画像数
3 仕上がり設定 P.58
4 ISO感度※1 .... P.48、118、119
5 ホワイトバランス P.59
6 画像サイズ P.38
　画質モード P.37
7 輪郭強調 P.97
8 階調補正 P.97
9 カラー設定、色合い調整 P.98
10 彩度設定 P.98
11 画像コメント※2 .... P.88

※1 カスタムメニュー「**10：感度自動制御**」(P.119) が「**ON**」のときに、設定したISO感度が、カメラによって変更された場合は赤字で表示されます。

※2 36文字まで登録できますが、撮影情報には最初の12文字だけが表示されます。

ハイライト表示

1 プロテクト表示 P.67
2 画像のハイライト部分が点滅表示されます。
3 画像の番号／全画像数

ヒストグラム表示

1 プロテクト表示 P.67
2 画像の番号／全画像数
3 画像のヒストグラムが表示されます。横軸はレベル、縦軸は画素数を表します。このヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムとは異なることがあります。目安としてお使いください。

さらに高度な設定

画像を常に横位置で表示する → 姿勢情報記録 (P.95)、縦位置自動回転 (P.109)
撮影後の画像が自動表示されないようにする → 5：撮影画像確認 (P.116)
液晶モニターの点灯時間を変更する → 17：液晶モニターパワーオフ (P.130)

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示モード）

1コマ表示モードのときに [サムネイル] ボタンを押すと、複数の縮小画像（サムネイル画像）を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。[サムネイル] ボタンを押すたびに、4コマ表示、9コマ表示、1コマ表示モードの順に切り替わります。

サムネイル表示モードでの操作方法

前後のページを見る	[ダイヤル]	左に回すと前のページが、右に回すと次のページが表示されます。
表示方法を切り換える	[サムネイル]	ボタンを押すたびに、4コマ表示、9コマ表示、1コマ表示モードの順に切り替わります。
画像を選ぶ	[十字キー]	拡大表示（P.66）や削除（P.68）、プロテクト（P.67）などの対象となる画像を選ぶときに使います。選んだ画像には、黄色の枠が表示されます。
画像を拡大する	ENTER（[拡大]）	選択中の画像が拡大表示されます（P.66）。
画像を削除する	[削除]	選択中の画像を削除します（P.68）。
画像を保護する	?/[プロテクト]	選択中の画像にプロテクト（保護）を設定します（P.67）。
撮影に戻る	シャッターボタンの半押しまたは [再生]	液晶モニターが消灯します。
メニューに移る	MENU	メニュー（P.32）が表示されます。

拡大表示

画像の再生中に ENTER（⚲）ボタンを押すと、表示中の画像（1コマ表示モード）または選択中の画像（サムネイル表示モード）が拡大表示されます。
拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約4.7倍、**M**では約3.5倍、**S**では約2.4倍です。

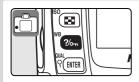
拡大表示中の操作方法

拡大率の変更	⊞ ＋ コマンドダイヤル	⊞ ボタンを押すと、画面に赤い枠が表示されます。⊞ ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと赤枠の大きさが変化し、マルチセレクターの▲▼◀▶を押すと赤枠が移動します。⊞ ボタンを放すと、赤枠内が拡大表示されます。
前後の画像を見る	コマンドダイヤル	コマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の画像が表示されます。
画面をスクロール（移動）させる	マルチセレクター	画面をスクロールさせて、見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。また、⊞ ボタンを押しながらマルチセレクターを押すと、画像全体を見ながら拡大表示範囲（赤枠）を移動できます。
拡大表示をやめる	ENTER（⚲）	拡大表示をやめ、1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードに戻ります。
画像を削除する	🗑	表示中の画像を削除します（P.68）。
画像を保護する	?/⊶	表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します（P.67）。
撮影に戻る	シャッターボタンの半押しまたは ▶	液晶モニターが消灯します。
メニューに移る	MENU	メニュー（P.32）が表示されます。

画像を保護する—プロテクト

大切な画像を誤って削除してしまうことを防ぐために、画像にプロテクト（保護）を設定することができます。ただし、メモリーカードを初期化（フォーマット、P.86）すると、プロテクトを設定した画像も削除されるので、ご注意ください。

1 1コマ表示モードのときは、プロテクトしたい画像を液晶モニターに表示します。サムネイル表示モードのときは、プロテクトしたい画像をマルチセレクターで選びます。

2 ?/○┑ ボタンを押すと、画像にプロテクトアイコン ○┑ が表示され、プロテクトが有効になります。

- もう一度 ?/○┑ ボタンを押すと、○┑ アイコンが消え、プロテクトが解除されます。

ヒント **プロテクト画像のファイル属性**

プロテクトを設定した画像は、DOSファイルフォーマットの「読み取り専用」属性になります。

画像を削除する

メモリーカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元に戻せないのでご注意ください。ただし、プロテクト（P.67）を設定した画像は、削除できません。

1 1コマ表示モードのときは、削除したい画像を液晶モニターに表示します。サムネイル表示モードのときは、削除したい画像をマルチセレクターで選びます。

2 🗑 ボタンを押すと、削除の確認画面が表示されます。

- もう一度 🗑 ボタンを押すと、選んだ画像が削除されます。
- 画像の削除を取り消したいときは、🗑 以外のボタンを押してください。

さらに高度な設定

複数の画像をまとめて消去する → 削除（P.108）

画像をテレビで見る

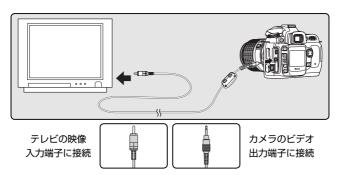
カメラをテレビやビデオなどに接続して、撮影した画像をテレビで見ることや、ビデオデッキで録画することができます。接続には、カメラに付属のビデオケーブルをお使いください。

1 「**セットアップメニュー**」→「**ビデオ出力**」を、お使いのテレビに合わせます (P.87)。

- 日本国内では通常、「**NTSC**」(初期設定) にしてください。

2 カメラの電源をOFFにします。

- **ビデオケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。**

3 カメラとテレビを以下のように接続します。

4 テレビの入力をビデオ入力に切り換えます。

5 カメラの電源をONにします。

- 撮影した画像がテレビの画面に表示されます。

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のACアダプターEH-5をお使いになることをおすすめします。ACアダプター接続中は、液晶モニターのパワーオフ設定は10分に固定されます。また、表示パネルは常に点灯します。
- カメラをテレビに接続している間は、液晶モニターは点灯しません。

関連ページ

ビデオの出力方式を変更する　→　ビデオ出力 (P.87)

画像をパソコンに転送する

付属のUSBケーブルを使って、撮影した画像をパソコンに転送することができます。ここでは、付属のPictureProject（ピクチャープロジェクト）ソフトウェアを使って画像をパソコンに転送するために、カメラ側で必要な操作について説明します。

PictureProjectソフトウェアを使うと、撮影した画像をパソコンに転送することができるほか、パソコン上で見やすく整理したり、調整したり、印刷したりすることができます。

- 最初にPictureProjectソフトウェア使用説明書CD-ROM（銀色）をよくお読みになり、必要なソフトウェアをインストールしてください。ソフトウェアの動作環境については、ソフトウェアの使用説明書でご確認ください。
- カメラとパソコンを接続するときは、バッテリーの消耗を防ぐため、別売のACアダプター EH-5をお使いになることをおすすめします。

ヒント　別売のNikon Capture 4（Ver.4.3以降）について

別売のNikon Capture 4（Ver.4.3以降）では、高度な画像調整やバッチ処理などをパソコン上で行うことや、パソコンからカメラをコントロールすることができます。

Nikon Capture 4のカメラコントロール機能をお使いになるときは、「**USB設定**」（P.89）を「**PTP**」にしてからパソコンと接続してください。Nikon Capture 4のカメラコントロール機能を起動すると、表示パネルとファインダー内下部に右のように表示されます。

カメラとパソコンを接続する前に

パソコンのOS（オペレーティングシステム）に合わせて、USB通信方式を設定します。以下の表を参考にして、セットアップメニューの「**USB設定**」で設定してください（P.89）。初期設定は「**Mass Storage**」です。

OS	USB設定
Windows XP Home Edition Windows XP Professional	「**Mass Storage**」または「**PTP**」
Mac OS X	
Windows 2000 Professional Windows Millennium Edition (Me) Windows 98 Second Edition (SE)	「**Mass Storage**」

Windows 2000 Professional、Windows Me、Windows 98SEをお使いの場合のご注意

これらのOSでPictureProjectの転送機能をお使いになるときは、必ず「**USB設定**」を「**Mass Storage**」にしてください。
「**PTP**」で接続した場合は、以下の要領で接続を外し、「**Mass Storage**」に変更してから、再接続してください。

Windows 2000 Professional：

「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」と表示されます。「キャンセル（中止）」を選んで画面を閉じてから、接続を外してください。

Windows Me：

「ハードウェア情報データベースの更新」の後に「新しいハードウェアの追加ウィザード」と表示されます。「キャンセル（中止）」を選んで画面を閉じてから、接続を外してください。

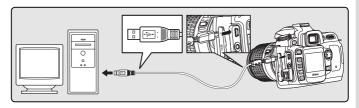
Windows 98SE：

「新しいハードウェアの追加ウィザード」と表示されます。「キャンセル（中止）」を選んで画面を閉じてから、接続を外してください。

カメラとパソコンを接続する

カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。

1 「**USB設定**」（P.89）が、OSに合わせて正しく設定されていることを確認し、パソコンを起動します。

2 カメラの電源をOFFにしてから、カメラに付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続します。

USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐに差し込んでください。

3 カメラの電源をONにします。

「**USB設定**」（P.89）が「**Mass Storage**」の場合は、正しく接続されると表示パネルとファインダー内下部に、左のように表示されます（「**PTP**」の場合、パソコンと接続しても表示は変化しません）。

4 画像を転送します。

- PictureProjectの使い方については、PictureProjectソフトウェア使用説明書CD-ROM（銀色）をご覧ください。

5　転送が終わったら、パソコンとカメラの接続を外します。

●USB通信方式がMass Storageの場合：

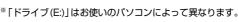
USBケーブルを外したり、カメラの電源をOFFにする前に、必ず次の操作を行ってください。

• Windows XP Home Edition ／ Professional：
パソコン画面右下の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックして「USB大容量記憶装置デバイス－ドライブ（E:）※を安全に取り外します。」を選んでください。

• Windows 2000 Professional：
パソコン画面右下の「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックして「USB大容量記憶装置デバイス－ドライブ（E:）※を停止します」を選んでください。

• Windows Me：
パソコン画面右下の「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックして「USBディスク－ドライブ（E:）※の停止」を選んでください。

• Windows 98SE：
マイコンピュータの中の「リムーバブルディスク」上でマウスを右クリックして「取り出し」を選んでください。

※「ドライブ(E:)」はお使いのパソコンによって異なります。

• Mac OS X：
デスクトップ上の「NIKON D50」のアイコンをゴミ箱に捨ててください。

●USB通信方式がPTPの場合：

カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜いてください。

☑ USBハブについてのご注意

USBハブを介しての接続は、動作保証しておりません。

画像をプリンターで印刷する

カメラで撮影した画像をプリント（印刷）します。画像をプリントするには、次のような方法があります。

1. カメラとプリンターを直接つないでプリントする→P.76

2. メモリーカードをプリンターのカードスロットに挿入してプリントする

プリンターの使用説明書をご覧ください。
DPOF（P.164）対応プリンターをお使いの場合は、事前にプリント指定（P.83）を行い、指定通りにプリントすることができます。

3. メモリーカードをプリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼する

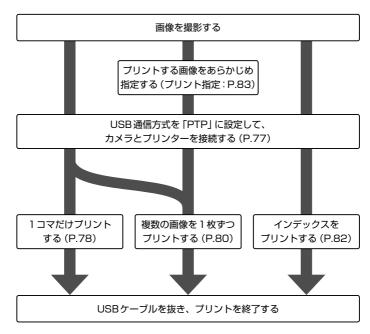
事前にプリント指定（P.83）を行った場合は、DPOF対応のプリントサービス取扱店にお持ち込みください。

4. カメラの画像をパソコンに転送してからプリントする

画像の転送方法については「画像をパソコンに転送する」（P.71）をご覧ください。パソコンでのプリント方法はお使いになるソフトウェアやプリンターの使用説明書をご覧ください。

※1〜3の方法では、RAW画像（P.37）はプリントできません。RAW画像はパソコンに転送してから、PictureProjectや別売のNikon Capture4（Ver.4.3以降）などのソフトウェアを使って、プリントしてください。

カメラとプリンターを直接つないでプリントする

PictBridge（ピクトブリッジ：P.164）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接接続してメモリーカード内の画像をプリントすることができます。これを「ダイレクトプリント」といいます。ダイレクトプリントは、以下の手順で行うことができます。

次ページから、それぞれの手順について詳しく説明します。

ダイレクトプリントの前に

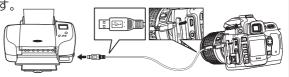
- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のACアダプター EH-5をお使いになることをおすすめします。
- ダイレクトプリントする画像を撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で撮影する場合は、「**撮影メニュー**」→「**仕上がり設定**」を「**ダイレクトプリント**」にするか、「**仕上がり設定**」→「**カスタマイズ**」→「**カラー設定**」（P.98）を初期設定の「**モードIIIa(sRGB)**」または「**モードIa(sRGB)**」にすることをおすすめします。

USB通信方式をPTPに設定して、カメラとプリンターを接続する

1 「**セットアップメニュー**」→「**USB設定**」を「**PTP**」にします(P.89)。

2 カメラの電源をOFFにします。

3 プリンターの電源をONにします。

4 カメラに付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続します。

USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐに差し込んでください。

5 カメラの電源をONにします。

- 正しく接続されると、液晶モニターに①の画面が表示された後、②の画面が表示されます。

①
②

1コマだけプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから（P.77）、以下の手順でプリントしてください。

1　左の画面でマルチセレクターの◀または▶を押して、プリントしたい画像を選びます。

- ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶこともできます。もう一度 ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- ENTER ボタンを押し続けると、拡大表示画面に切り替わります。再生時の拡大表示（P.66）と同様の操作で、細部を確認しながら画像を選ぶことができます。

2　ENTER ボタンを押してすぐに放すと、左の画面が表示されます。

3　以下の項目を設定します。▲または▼で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	枚数
用紙設定 プリンターの設定　▶決定 Lサイズ 2Lサイズ はがき A4サイズ	
プリントする用紙のサイズを選びます。▶を押すと、**2**の画面に戻ります。表示される用紙サイズは、プリンターによって異なります（P.82）。	プリントする枚数（99枚まで）を設定します。 ▶を押すと、**2**の画面に戻ります。

フチ設定	日付プリント
 「**あり**」（フチありプリント）または「**なし**」（フチなしプリント）を選びます。 ▶を押すと、**2**の画面に戻ります。	 「**ON**」（日付を印刷する）または「**OFF**」（日付を印刷しない）を選びます。 ▶を押すと、**2**の画面に戻ります。

範囲指定

プリント範囲を指定します。「**する**」を選んで▶を押すと、下のような画面が表示されます。コマンドダイヤルを回すと範囲の大きさが変わり、マルチセレクターの▲▼◀▶で範囲が移動します。

ENTER ボタンを押すと範囲が決定し、**2**の画面に戻ります。

4 「**プリント実行**」を選んで▶を押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、**1**の画面に戻ります。

- プリントを途中で中止したいときは、ENTER ボタンを押してください。

✓ プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

「**用紙設定**」、「**フチ設定**」、「**日付プリント**」の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に「**プリンターの設定**」を選んでください。

複数の画像を1枚ずつプリントする

あらかじめカメラとプリンターを正しく接続してから (P.77)、以下の手順でプリントしてください。

1 左の画面で MENU ボタンを押します。

2 「**プリント画像選択**」または「**DPOFプリント**」を選び、マルチセレクターの▶を押します。

- 事前に「**プリント指定**」(P.83) をした場合、「**DPOFプリント**」を選べば、3の画面にプリント指定で設定したプリント枚数が反映されます。

(ここでは「**プリント画像選択**」の画面で説明していますが、「**DPOFプリント**」画面でも操作方法は同じです)

3 ◀または▶でプリントする画像を選び、▲または▼でプリント枚数 (99枚まで) を設定します。

- プリントされる画像には、アイコンとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、アイコンが消え、その画像はプリントされません。
- ボタンを押すと、選択中の画像が拡大表示されます。

✓ プリンターの設定を優先してプリントしたいときは

「**用紙設定**」、「**フチ設定**」、「**日付プリント**」の設定について、プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に「**プリンターの設定**」を選んでください。

4

ENTER ボタンを押すと、左の画面が表示されます。

5

以下の項目を設定します。▲または▼で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。

用紙設定	フチ設定
プリントする用紙のサイズを選びます。▶を押すと、**4**の画面に戻ります。表示される用紙サイズは、プリンターによって異なります（P.82）。	「**あり**」（フチありプリント）または「**なし**」（フチなしプリント）を選びます。▶を押すと、**4**の画面に戻ります。

日付プリント

「**ON**」（日付を印刷する）または「**OFF**」（日付を印刷しない）を選びます。
▶を押すと、**4**の画面に戻ります。

6

「**プリント実行**」を選んで▶を押すと、プリントが始まります。プリントが終わると、**2**の画面に戻ります。

- プリントを途中で中止したいときは、ENTER ボタンを押してください。

INDEX（インデックス）プリント

メモリーカード内のすべてのJPEG画像（P.37）が一覧できる「インデックス」をプリントすることができます。

1 「複数の画像を1枚ずつプリントする」（P.80）のステップ**2**で「**INDEXプリント**」を選ぶと、右のような画面が表示されます。

2 ENTER ボタンを押すと、「複数の画像を1枚ずつプリントする」（P.80）のステップ**4**の画面に移ります。以下、ステップ**5**、**6**と同様の手順でプリントしてください。

- 用紙サイズによっては、インデックス印刷ができない場合があります（警告画面が表示されます）。
- インデックス印刷できるのは256コマまでです。メモリーカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります（確認画面が表示されます）。

✓ 用紙設定についてのご注意

用紙設定画面では、「**プリンターの設定**」以外に、「**Lサイズ**」、「**2Lサイズ**」、「**はがき**」、「**100mm×150mm**」、「**4"×6"**」、「**203mm×254mm**」、「**Letter**」、「**A3**」、「**A4サイズ**」のうち、プリンターが対応している用紙サイズが表示されます。

✓ プリント中のエラーについてのご注意

プリント中に右のようなエラーメッセージが表示された場合は、プリンターの状況（用紙の有無など）をご確認ください。エラーの原因を取り除いてから、「**継続**」を選んで ENTER ボタンを押すと、プリントが再開されます。「**キャンセル**」を選んで ENTER ボタンを押すと、その時点でプリントが中止されます。なお、エラーの内容によっては、「**継続**」できない場合があります。

✓ ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像（P.37）とスモールピクチャー（P.111）は、ダイレクトプリントできません。これらの画像も画像選択画面に表示されますが、選ぶことはできません。
- 「**フチ設定**」と「**範囲指定**」は、接続したプリンターがそれぞれの機能に対応していない場合は、選ぶことができません。なお、「範囲指定」で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

プリントする画像をあらかじめ指定する（プリント指定）

メモリーカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはダイレクトプリント（P.76）時に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定することができます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。

プリント指定の方法は以下の通りです。

1 再生メニュー（P.106）の「**プリント指定**」で、「**設定**」を選びます。

2 「プリント指定」画面が表示されます。マルチセレクターの◀▶で、プリントしたい画像を選びます。

3 ▲を押して、プリント枚数（99枚まで）を設定します。

- 設定した画像には、プリントアイコンとプリント枚数が表示されます。
- ▼を押すと、プリント枚数が減少します。枚数を0にすると、プリントアイコンが消え、その画像はプリントされません。
- MENU ボタンを押すと、画像選択を中止して、再生メニューに戻ります。

4 **2**と**3**の手順を繰り返して、プリントしたい画像すべてについてプリント枚数を設定します。

5 ENTER ボタンを押すと、左の画面が表示されます。

- 「**撮影情報**」または「**日付**」を選んで▶を押し、チェックボックスをオンにすると、指定した画像すべてに、撮影情報や撮影した日付がプリントされます。

6 「**設定終了**」を選んで▶を押すと、設定が有効になり、再生メニューに戻ります。

☑ プリント指定についてのご注意

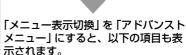
- ダイレクトプリント時には、「**プリント指定**」の「**撮影情報**」「**日付**」の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの「**日付プリント**」を「**ON**」にしてください。
- メモリーカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像（P.37）とスモールピクチャー（P.111）には、プリント指定はできません。これらの画像も画像選択画面に表示されますが、選ぶことはできません。
- プリント指定を行ったメモリーカード内のデータを、パソコンなどで削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

カメラの基本設定 — セットアップメニュー

セットアップメニューには以下の項目があります。このうち、「**カードフォーマット**」から「**USB設定**」までは常に表示されますが、「**記録フォルダー設定**」以降は「**メニュー表示切換**」(P.86)を「**アドバンストメニュー**」にしたときだけ表示されます。メニューの操作方法についてはP.32をご覧ください。

【常に表示される項目】

項目	ページ
カードフォーマット	P.86
メニュー表示切換	P.86
日時設定	P.86
画面の明るさ	P.87
ビデオ出力	P.87
言語	P.87
画像コメント	P.88
USB設定	P.89

「メニュー表示切換」を「アドバンストメニュー」にすると、以下の項目も表示されます。

項目	ページ
記録フォルダー設定	P.90
連番モード	P.92
クリーニングミラーアップ	P.150
ダストオフデータ取得	P.93
ファームウェアバージョン	P.95
姿勢情報記録	P.95

カードフォーマット

メモリーカードを初期化（フォーマット）します。**初期化すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。

カードフォーマットについてのご注意

「フォーマット中」のメッセージが液晶モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。

メニュー表示切換

セットアップメニュー（P.85）とカスタムメニュー（P.112）とに表示される内容を設定します。「**シンプルメニュー**」（初期設定）のときは一部の基本的な項目だけが、「**アドバンストメニュー**」にするとすべての項目が表示されます。

日時設定

日時を設定します。詳しくは「はじめに—撮影の準備」の「日付と時刻を設定する」（P.12）をご覧ください。月に1回程度、日時設定を行うことをおすすめします。

時計用電池についてのご注意

カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のACアダプター EH-5を接続すると、時計用電池が充電されます。充電には約3日間かかり、約1ヶ月の間、設定した日時を記憶することができます。表示パネルに CLOCK マークが点滅した場合は、内蔵時計の設定が初期化されているため、撮影日時が正しく記録されません。もう一度日時設定を行ってください。

画面の明るさ

液晶モニターの明るさを－２～＋２の５段階で調整できます。

ビデオ出力

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を設定します。通常、日本国内では「**NTSC**」（初期設定）にします。

- 「**PAL**」はPAL方式のテレビやビデオに接続する場合に使います。「**PAL**」にした場合、画面がちらつくことがあります。
- ビデオ出力方式にかかわらず、ビデオケーブルをカメラに接続しているときは、液晶モニターは点灯しません。

言語（LANG）

メニューやメッセージの表示言語を、以下の１３種類から選ぶことができます。

De	**Deutsch**	ドイツ語
En	**English**	英語
Es	**Español**	スペイン語
Fr	**Français**	フランス語
It	**Italiano**	イタリア語
Ne	**Nederlands**	オランダ語
Po	**Português**	ポルトガル語

Py	**Русский**	ロシア語
Sv	**Svenska**	スウェーデン語
繁	**中文（繁體）**	繁体中国語
简	中文（简体）	簡体中国語
日	**日本語**	日本語
한	**한글**	韓国語

画像コメント

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付することができます。添付されたコメントは、PictureProjectや別売のNikon Capture 4（Ver.4.3以降）の撮影情報表示エリアに表示されます。

コメントの入力

コメントを登録します。「**コメント入力**」を選ぶと、画像コメントの入力画面（下記ヒント参照）が表示されます。36文字までのコメントを入力し、ENTER ボタンを押すと、コメントが登録されます。

コメントの添付

登録したコメントを画像に添付したい時は、「**コメント添付**」を選んでマルチセレクターの▶を押し、チェックボックスをオン☑にします。「**設定終了**」を選んで▶を押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像にはすべてコメントが添付されます。

ヒント 画像コメント入力画面の操作方法

キーボードエリア

マルチセレクターで文字を選び、?/O-n ボタンを押すと、コメントエリアに文字が入力されます。

コメントエリア

入力した文字が表示されます。⊞ ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、カーソルが左右に移動します。

- 入力した文字は、カーソルがある位置に挿入されます。
- 入力できるのは36文字までです。37文字以上入力すると、コメントエリアからあふれた文字が削除されます。
- 文字を削除したい時は、削除する文字の上にカーソルを移動し、🗑 ボタンを押します。その文字が削除され、後ろの文字が繰り上がります。
- コメントの登録をキャンセルしたいときは、MENU ボタンを押してください。

USB設定

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続するときのUSB通信方式を設定します。

- 付属のPictureProjectソフトウェアを使って画像をパソコンに転送するときは、お使いのOS（オペレーションシステム）に合わせて正しい通信方式を選んでください。詳しくは「【応用編】再生―画像をパソコンに転送する」(P.71)をご覧ください。
- PictBridge規格対応プリンターに直接接続してプリントする時は、「**PTP**」にしてください。
- 別売のNikon Capture 4（Ver.4.3以降）のカメラコントロール機能をお使いになる時は、「**PTP**」にしてください。

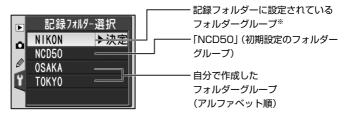
記録フォルダー設定

画像を記録するフォルダーを選んだり、新しく作成したりすることができます。

フォルダー名は3ケタの数字（フォルダー番号）と5ケタの英数字（フォルダーグループ名）で構成されています。

記録フォルダー選択

「**記録フォルダー選択**」を選ぶと、下のような「記録フォルダー選択」画面が表示され、画像を記録するフォルダーグループを選ぶことができます。

フォルダー選択画面の見方は以下の通りです。

※ 記録フォルダーに設定したフォルダーグループは、「**空フォルダー削除**」で削除したり、メモリーカードを交換した場合でもそのまま表示されます。このフォルダーグループを選んだままで撮影を行うと、同じ名称のフォルダーグループが、再び作成されます。

☑ グループ内に複数のフォルダーがある場合のご注意

使用中のフォルダー内の画像ファイルが999コマに達するか、ファイル番号が9999に達した時に撮影を行うと、同じグループ名で番号が更新されたフォルダーが自動的に作成されます。

グループ内に複数のフォルダーがある場合、「**記録フォルダー選択**」でそのグループを選ぶと、グループ内でフォルダー番号が最大のフォルダーが選ばれます。たとえば、101NCD50、102NCD50というフォルダーがある場合、「**記録フォルダー選択**」で「NCD50」を選ぶと、102NCD50に画像が記録されます。

新規作成

新しいフォルダーグループを作成します。「**新規作成**」を選ぶと、フォルダー名編集画面（下記ヒント参照）が表示されます。5文字までのフォルダーグループ名を入力し、ENTER ボタンを押すと、フォルダーグループが作成されます。

フォルダー名変更

「**フォルダー名変更**」を選ぶと、フォルダーグループ名の一覧が表示されます。名称を変更したいフォルダーグループを選ぶと、グループ名編集画面（下記ヒント参照）が表示されます。5文字までのグループ名を入力し、ENTER ボタンを押すと、グループ名が変更され、同時にそのグループ内のすべてのフォルダーのフォルダー名が変更されます。ただし、フォルダー番号は変更されません。

空フォルダー削除

画像が1コマも記録されていないフォルダーグループがすべて削除されます。

ヒント　グループ名編集画面の操作方法

キーボードエリア

マルチセレクターで文字を選び、?/On ボタンを押すと、グループ名エリアに文字が入力されます。

グループ名エリア

入力した文字が表示されます。ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、カーソルが左右に移動します。

- 入力した文字は、カーソルがある位置に挿入されます。
- 入力できるのは5文字までです。6文字以上入力すると、グループ名エリアからあふれた文字が削除されます。
- 文字を削除したい時は、削除する文字の上にカーソルを移動し、🗑 ボタンを押します。その文字が削除され、後ろの文字が繰り上がります。
- フォルダーグループの新規作成やグループ名の変更を中止したい時は、MENU ボタンを押して、メニューに戻ってください。

連番モード

- 「**ON**」にすると、メモリーカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、以前からの続きのファイル番号を付けることができます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
- 「**OFF**」（初期設定）のときは、メモリーカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。連番モードを「**ON**」から「**OFF**」に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に「**ON**」に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付けられます。
- 「**リセット**」を選ぶと、カメラが記憶しているファイル番号をリセットします。リセット後に撮影を行うと、新しいフォルダーが作成され、「0001」からの連番でファイル番号が付けられます。ただし、記録フォルダーに設定されているフォルダーに画像ファイルが無い場合は、フォルダーは作成されず、「0001」からの連番で画像が記録されます。

☑ ファイル番号についてのご注意

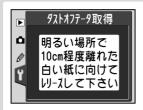
- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、連番モードの設定にかかわらずファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999に達しているときに、ファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達した場合は、それ以上フォルダーを作成することができず、シャッターがきれなくなります。この場合は、「**連番モード**」を「**リセット**」した後、メモリーカードをフォーマットするか、交換してください。

クリーニングミラーアップ

撮像素子上のローパスフィルターの汚れを調べたり、クリーニングするために、ミラーを上げた状態で固定します。詳しくは「付録」の「ローパスフィルターのお手入れ」(P.150)をご覧ください。

ダストオフデータ取得

別売のNikon Capture 4（Ver.4.3以降）の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラのローパスフィルターに付いたゴミによる影響を、RAW画像から取り除く機能です。詳しくは、Nikon Capture 4の使用説明書をご覧ください。

ダストオフデータ取得の手順

1 上の画面で「**する**」を選んでマルチセレクターの▶を押すと、左の画面が表示されます。

- 表示パネルとファインダー内下部に、下のように表示されます。

- データ取得を取り消したいときは、MENU ボタンを押してください。

2

レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しします。

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎたり暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、ステップ1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。

ダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、「**ダストオフデータ取得**」を選ぶことはできません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のものをおすすめします（P.138）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- ダストオフデータを画像処理ソフトウェアなどで開くことはできません。
- ダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。ヒストグラム、ハイライトは表示できません。

ファームウェアバージョン

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

姿勢情報記録

撮影時のカメラの姿勢情報を画像に記録するかどうかを設定します。

- 「**する**」（初期設定）のときは、液晶モニターやPictureProject、別売のNikon Capture 4（Ver.4.3以降）で画像を再生するときに、記録した姿勢情報を利用して、自動的に画像を回転表示することができます。

  記録されるカメラの姿勢情報は、以下の３種類です。

- 「**しない**」にすると、姿勢情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示されます。

姿勢情報記録についてのご注意

- 連写モード（P.27）では、最初の1コマを撮影した姿勢が記録されます。連写中に構図を変えても、姿勢情報には反映されません。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、姿勢情報が正しく得られない場合があります。

関連ページ

姿勢情報を利用して画像を回転表示するかどうかを設定する

→ 再生メニュー「縦位置自動回転」（P.109）

撮影についての設定 ― 撮影メニュー

撮影についての設定は、「撮影メニュー」で行います。メニューの表示方法や操作方法については、P.32をご覧ください。

撮影メニューには、以下の項目があります。

項目	説明	参照
仕上がり設定※1	画像の仕上がりを、撮影するシーンや好みに合わせて設定します。	P.58、97
ノイズ除去	夜景撮影など、暗い所での低速シャッター撮影時に発生しやすいノイズを低減します。	P.99
画質モード	記録する画像のファイル形式や画質を設定します。	P.37
画像サイズ	記録する画像のサイズ（大きさ）を設定します。	P.38
ホワイトバランス※1	画像が見た目に近い色で記録されるように、光源に合わせてホワイトバランスを設定します。	P.59、100
ISO設定※2	ISO感度を設定します。標準（200）より高くすることで、暗い所での撮影に対応できます。	P.48

※1 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定できます。

※2 撮影モード AUTO、、、、、、 では、カスタムメニュー「**9：感度自動設定**」（P.118）を「**OFF**」にしたときに設定できます。

仕上がり設定

仕上がり設定を変更します。内容については「【応用編】撮影—撮影モードP、S、A、Mで撮影する」の「仕上がり設定」(P.58) をご覧ください。

仕上がり設定のカスタマイズ

仕上がり設定で「**カスタマイズ**」を選ぶと、右の画面が表示され、「**輪郭強調**」、「**階調補正**」、「**カラー設定**」、「**彩度設定**」、「**色合い調整**」の５種類の項目を個別に設定できます。

５種類の項目の内容は、以下の通りです。

輪郭強調

画像の輪郭の強調度合い（シャープネス）を設定します。初期設定は「**オート**」です。

階調補正

画像の階調（コントラスト）を設定します。

初期設定は「**オート**」です。「**ユーザーカスタム**」は、別売のNikon Capture 4（Ver.4.3以降）で作成したトーンカーブを使うときに設定します。詳しくはNikon Capture 4の使用説明書をご覧ください。

☑ 輪郭強調、階調補正を「オート」にしたときのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- 充分な効果を得るには、GタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

カラー設定

画像の色再現を設定します。

モードIIIa (sRGB) （初期設定）	人物や風景など様々な被写体を、鮮やかな色合いでくっきりと表現します。sRGB色空間に対応しています。
モードIa (sRGB)	人物の肌などを、自然な色合いで階調豊かに表現します。初期設定の「**モードIIIa**」よりもややソフトに仕上がります。sRGB色空間に対応しています。
モードII (Adobe RGB)	画像をパソコンなどで加工する場合に適しています。sRGBよりも色域が広いAdobeRGB色空間に対応しています。

彩度設定

画像の彩度（色の鮮やかさ）を設定します。

初期設定は「**標準**」です。

色合い調整

画像の色相を調整します。初期設定の「**0°**」から、＋方向と－方向にそれぞれ3段階（1段階は約3°）で調整できます。肌色を基準にした場合、＋側にすると黄色みが増し、－側にすると赤みが増します。

☑ カラー設定についてのご注意

- 一般的な撮影には、「**モードIIIa**」または「**モードIa**」をお使いになることをおすすめします。
  - ・カラーマネジメント機能を持たないアプリケーションで画像を開くときや、プリントするとき
  - ・ダイレクトプリントや、プリントサービス店にプリントを依頼するとき
- 「**モードII**」の画像をAdobe Photoshopなどのカラーマネジメント機能を持つアプリケーションで開く場合は、色空間をAdobe RGBに設定してください。詳しくはアプリケーションの説明書をご覧ください。

ノイズ除去

シャッタースピードが約１秒より低速になると、画像にノイズ（長秒時ノイズ）が入る場合があります。あらかじめ「**ノイズ除去**」を「**する**」にしておくと、この長秒時ノイズを低減できます。初期設定は「**しない**」です。

「**する**」のときは、シャッタースピードが約１秒より低速になると、自動的に長秒時ノイズを除去します。ノイズ除去をしない場合に比べて、画像の記録時間が約２倍になります。

処理中は、表示パネルとファインダー内下部に、右のように表示されます。この表示が消えると、次の撮影ができます。

画質モード

画質モードを変更します。内容については「【応用編】撮影―画質や画像のサイズを変更する」（P.37）をご覧ください。

画像サイズ

画像サイズ（大きさ）を変更します。内容については「【応用編】撮影―画質や画像のサイズを変更する」（P.38）をご覧ください。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを変更します。内容については「【応用編】撮影—撮影モードP、S、A、Mで撮影する」の「ホワイトバランス」(P.59) をご覧ください。

プリセットホワイトバランス

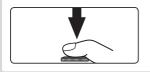
特殊な照明の下で撮影するときなど、「オート」や「電球」などの設定では望ましい結果が得られない場合や、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したいときは、事前に取得（プリセット）したホワイトバランスを使うことができます。プリセットデータとして使うことができるのは、以下の２種類のデータです。

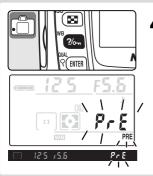
取得データ	カメラで取得したホワイトバランスを、プリセットデータとして使います。
撮影データ	メモリーカード内にある撮影済み画像のホワイトバランスを、プリセットデータとして使います。別売のNikon Capture 4（Ver.4.3以降）で調整したホワイトバランスを、プリセットデータとして使うこともできます。

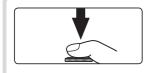
プリセットデータをカメラで取得する（「取得データ」を使用）

プリセットデータとして保存できる「取得データ」は1つだけです。カメラでプリセットデータを取得するたびに、以前保存した「取得データ」は、新しいデータに置き換えられるので、ご注意ください。

1 撮影するときに使う照明と、白またはグレーの被写体を用意します。

2 **「撮影メニュー」→「ホワイトバランス」→「プリセット」→「取得データ」**を選んでマルチセレクターの▶を押します。

3 シャッターボタンを半押しします。

- 液晶モニターが消灯します。

4 ?/⊶（**WB**）ボタンを1.5秒以上押し続けます。

- プリセットデータ取得モードに入り、表示パネルとファインダー内下部に、左のような表示が点滅します。

5 撮影時に使う照明の下で、用意した白（またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえて、シャッターボタンを押します。

- ピントが合っていなくても、プリセットデータは正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、メモリーカードに画像は記録されません。

6 表示パネルとファインダー内下部に、左のような表示が点滅すれば、データ取得は成功です。

- これで、撮影時の照明の色に合わせてホワイトバランスが変更されました。

- 左のように表示された場合、データ取得は失敗です。原因として、被写体が明るすぎる、または暗すぎることが考えられます。?/⊶（**WB**）ボタンを押して、もう一度ステップ3からやり直してください。

- プリセットデータ取得を途中で取り消すには、?/⊶（**WB**）ボタンを押してください。

☑ データ取得についてのご注意

- プリセットデータとして「**撮影データ**」に使うように設定していても、新しくプリセットデータを取得すると、自動的に「**取得データ**」を使うように変更されます。
- ホワイトバランスを厳密に合わせたいときは、市販の18%標準反射板を使ってプリセットデータを取得してください。

メモリーカード内の画像のホワイトバランスを使う（「撮影データ」を使用）

プリセットデータとして保存できる「撮影データ」は1つだけです。「撮影データ」からプリセットデータを取得するたびに、以前保存した「撮影データ」は、新しいデータに置き換えられるので、ご注意ください。

1 「**撮影メニュー**」→「**ホワイトバランス**」→「**プリセット**」→「**撮影データ**」を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 左のような画面が表示されます。プリセットデータとして使いたい画像を選びます。

- 画面に表示されている画像のホワイトバランスに設定したいときは、「**表示画像で設定**」を選んで▶を押すと、設定が有効になります。
- 別の画像を選ぶときは、「**データを選択**」を選んで、▶を押します。ステップ**3**にお進みください。

3 フォルダの選択画面が表示されます。使いたい画像が保存されているフォルダを選びます。

4 ▶を押すと、選んだフォルダ内の画像が一覧表示されます。

5 ▲▼◀▶で画像を選びます。

6 ENTER ボタンを押すと、設定が有効になり、撮影メニューに戻ります。

✓ プリセットデータについてのご注意

プリセットデータとして設定できるのは、D50で撮影した画像だけです。D50以外のデジタルカメラで撮影した画像も上記ステップ**5**の画像選択画面に表示されますが、プリセットデータとして設定することはできません。

ISO 設定

ISO感度を変更します。内容については「【応用編】撮影—ISO感度を設定する」(P.48) をご覧ください。

再生についての設定 — 再生メニュー

画像を再生するときの設定は、「再生メニュー」で行います。メニューの表示方法や操作方法については、P.32をご覧ください。カメラにメモリーカードが入っていない場合、再生メニューは表示されません。

削除
再生フォルダー設定 NCD50
縦位置自動回転 ON
スライドショー 2s
プリント指定
スモールピクチャー

再生メニューには、以下の項目があります。

項目	内容	参照
削除	メモリーカード内の画像を個別に、またはまとめて削除します。	P.108
再生フォルダー設定	どのフォルダーの画像を再生するかを設定します。	P.108
縦位置自動回転	縦位置で撮影した画像を、再生時に自動的に回転して表示するかどうかを設定します。	P.109
スライドショー	メモリーカード内の画像を1コマずつ順番に自動再生します。	P.110
プリント指定	DPOF対応のプリントショップやプリンターで画像を印刷するための設定をします。	P.83、111
スモールピクチャー	メモリーカード内の画像から、サイズを小さくした別の画像を作ります。	P.111

画像選択画面の操作方法

再生メニューで画像の削除 (P.108) やプリント指定 (P.83、111)、スモールピクチャー (P.111) の作成、ダイレクトプリント (P.76) を行うときは、右のような「画像選択画面」が表示される場合があります。画像選択画面での操作方法は以下の通りです。

1

マルチセレクターの◀または▶を押して、画像を選びます。

2

画像の細部を確認したいときは、 ボタンを押すと、選択中の画像が拡大表示されます。 ボタンを放すと元に戻ります。

3

▲または▼を押して、設定のON/OFF（またはプリント枚数）を設定します。設定がONになると、内容に応じたアイコンが表示されます。プリント関連の設定の場合は、アイコンの横にプリント枚数も表示されます。

4

ENTER ボタンを押すと、設定が有効になります。

削除

画像を削除します。ただし、🔑 がついている画像はプロテクト（P.67）が設定されているため、削除できません。たくさんの画像を削除するときは、時間がかかる場合があります。

選択画像削除	指定した画像だけを削除します。
全画像削除	すべての画像を削除します。

再生フォルダー設定

画像の再生（P.62）時に、画像の記録に使われているフォルダー内の画像だけを表示するか、すべての画像を表示するかを設定します。

記録中のフォルダー（初期設定）	画像の記録に使われているフォルダー内の画像だけが再生されます。
全てのフォルダー	メモリーカード内のすべての画像が再生されます。

☑ 再生フォルダー設定についてのご注意

- 「**全てのフォルダー**」にした後に撮影を行うと、自動的に「**記録中のフォルダー**」に変更されます。すべてのフォルダーの画像を再生するには、改めて「**全てのフォルダー**」にしてください。
- 画像を記録するフォルダーはセットアップメニューの「**記録フォルダー設定**」（P.90）で設定できます。
- 「**記録中のフォルダー**」にして、メモリーカードを交換した後、撮影を行わずに画像を再生すると、液晶モニターに「撮影画像がありません」と表示されます。「**全てのフォルダー**」に変更すると、メモリーカード内の画像が再生できます。

縦位置自動回転

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示するかどうかを設定します。初期設定は「**する**」です。

ただし、「**する**」にしていても、セットアップメニューの「**姿勢情報記録**」(P.95) を「**しない**」にして撮影した画像は、すべて横位置で表示されます。

スライドショー

撮影した画像を1コマずつ順番に、連続再生する「スライドショー」を行います。

スライドショーの操作方法

「**開始**」を選んでマルチセレクターの▶を押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの実行中は、以下の操作が可能です。

1コマ進む／戻る		▶を押すと次の画像に進み、◀を押すと1つ前の画像に戻ります。
画像情報を見る		スライドショーの再生中に画像情報が表示され、画像情報画面の切り換えができます。
一時停止	ENTER	スライドショーが一時停止し、右の画面が表示されます。再開するには、「**再開**」を選んで▶を押します。「**終了**」を選んで▶を押すと、再生メニューに戻ります。
再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る		スライドショーを中止して、1コマ表示モード（P.62）またはサムネイル表示モード（P.65）に戻ります。
撮影に戻る		シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターが消灯します。

インターバル設定

1コマの画像が表示される時間を変更できます。「**インターバル設定**」を選んでマルチセレクターの▶を押すと、右の画面が表示されます。初期設定は「**2秒**」です。

関連ページ

スライドショーで再生するフォルダーを選ぶ → 「**再生フォルダー設定**」（P.108）

プリント指定

画像をプリントするための設定を、あらかじめカメラで行うことができます。設定方法については、P.83をご覧ください。

プリント指定の一括解除

プリント指定で設定した内容をすべて解除します。「**一括解除**」を選んで、マルチセレクターの▶を押すと、右の「設定終了」画面が表示された後、再生メニューに戻ります。

スモールピクチャー

撮影した画像から、サイズの小さい画像を新しく作成します。撮影した画像をホームページで表示するときや、電子メールに添付するときなどに便利な機能です。

スモールピクチャーで作成する画像のサイズは、「**640×480**」（初期設定）、「**320×240**」、「**160×120**」から選ぶことができます。「**640×480**」の場合、画像サイズ「**L**」（3008×2000ピクセル）の画像と比べて、画像ファイルの大きさは約1/20になります。

✓ スモールピクチャーについてのご注意

- スモールピクチャーで作成した画像は、元画像とは別のJPEG画像として保存されます。
- スモールピクチャーは、再生時にグレーの枠付きで表示されます。
- メモリーカードの残量が充分にない場合は、スモールピクチャーを作成できません。
- D50で作成したスモールピクチャーをD50以外のカメラで再生したり、D50以外のカメラで作成したスモールピクチャーをD50で再生したりすることは、動作保証しておりません。

さらに細かい設定 — カスタムメニュー

カスタムメニューでは、カメラの各種設定を、好みに合わせて変更することができます。

カスタムメニューには、以下の項目があります。このうち、R～6までは常に表示されますが、7～20はセットアップメニューの「**メニュー表示切換**」（P.86）を「**アドバンストメニュー**」にしたときだけ表示されます。メニューの操作方法については、P.32をご覧ください。

【常に表示される項目】

R：リセット	P.113
1：電子音設定	P.113
2：AFモードの選択	P.114
3：AFエリアモード設定	P.115
4：カード無時レリーズ	P.116
5：撮影画像確認	P.116
6：フラッシュ調光補正	P.47、116

セットアップメニュー「メニュー表示切換」を「アドバンストメニュー」にすると、以下の項目も表示されます

7：内蔵AF補助光	P.117
8：フォーカスエリア照明	P.117
9：感度自動設定	P.118
10：感度自動制御	P.119
11：露出値ステップ幅	P.120
12：オートブラケティング	P.120
13：測光モード	P.124
14：AE/AFロックボタン	P.127
15：半押しAEロック	P.129
16：内蔵フラッシュ発光	P.129
17：液晶モニターパワーオフ	P.130
18：半押しタイマー	P.130
19：セルフタイマー	P.130
20：リモコン待機時間	P.131

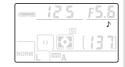
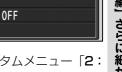
R：リセット

「**する**」を選ぶと、すべてのカスタムメニューの設定内容が、初期設定に戻ります。ツーボタンリセット（P.61）とは、リセットされる内容が異なるので、ご注意ください。

関連ページ

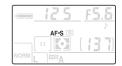
初期設定について → 付録 撮影モード別：初期設定一覧（P.134）

1：電子音設定（すべての撮影モードで設定可能）

- 「**ON**」（初期設定）のときは、以下の場合に電子音が鳴ります。
  - ・セルフタイマー（P.28）の作動中
  - ・2秒リモコン撮影（P.28）の作動中
  - ・瞬時リモコン撮影（P.28）の完了時
  - ・オートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、撮影モードが 🏃 のときや、カスタムメニュー「**2：AFモードの選択**」（P.114）が「**AF-C**」のとき、または「**AF-A**」で自動的にAF-Cが選ばれた場合、電子音は鳴りません）
- 「**OFF**」にすると、電子音は鳴りません。
- 「**ON**」のときは表示パネルに ♪ マークが、「**OFF**」のときは 🔇 マークが表示されます。

2：AFモードの選択（撮影モードP、S、A、Mで設定可能）

AFモード（ピントの合わせ方）を、以下の3種類から選ぶことができます。

AF-A（初期設定）	撮影状況や被写体の動きによって、下記のAF-SとAF-Cをカメラが自動的に切り換えます。
AF-S	「シングルAFサーボ」モードで、静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-C	「コンティニュアスAFサーボ」モードで、動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、ピントを合わせ続けます。シャッターボタンを半押ししても、フォーカスはロックされません。AF補助光は点灯しません。

AFモードの設定は、表示パネルで確認できます。右図は「**AF-S**」を選んだ場合です。「**AF-A**」を選んだ場合は、何も表示されません。

ヒント AF-Cでフォーカスロックを行うとき

「**AF-C**」でフォーカスロックを行うときは、AE-L/AF-L ボタンを押してください。シャッターボタンを半押ししても、フォーカスはロックされません。

3：AFエリアモード設定（すべての撮影モードで設定可能）

ピントを合わせるフォーカスエリアを、カメラがどのように選択するかを設定します。

[ ] シングル※1	フォーカスエリアを自分で選び、そのエリアだけを使ってピントを合わせます。静止している被写体の撮影に適しています。
[·□·] ダイナミック※2	フォーカスエリアを選ぶのはシングルと同じですが、選んだフォーカスエリアから被写体が一時的に外れてしまった場合でも、他のフォーカスエリアを使ってピントを合わせることができます。不規則な動きをする被写体の撮影に効果的です。
[■] 至近優先ダイナミック※3	基本的に、いちばん近くにある被写体をカメラが自動的に認識し、その被写体を含むフォーカスエリアを使ってピントを合わせます。

※1 撮影モード 、**P**、**S**、**A**、**M** の初期設定

※2 撮影モード の初期設定

※3 撮影モード AUTO、、、、 の初期設定

AFエリアモードの設定は、表示パネルとファインダー内下部で確認できます。右図は「**シングル**」で中央のフォーカスエリアを選んだ場合です。

ヒント フォーカスロックを行うときは

フォーカスロックを行うときは、「**シングル**」か「**ダイナミック**」に設定することをおすすめします。

関連ページ

ピントを合わせる領域を指定する　→　【応用編】　撮影（P.40）

ピント合わせの方式を変える　→　2：AFモードの選択（P.114）

【設定編】さらに細かい設定　カスタムメニュー

4：カード無時レリーズ（すべての撮影モードで設定可能）

- 「**レリーズ禁止**」（初期設定）のときは、カメラにメモリーカードを入れないとシャッターがきれません。
- 「**レリーズ許可**」にすると、メモリーカードを入れなくてもシャッターがきれるようになります。ただし、メモリーカードが入っていないときに撮影した画像は、液晶モニターに表示されるだけで、**プリントやメモリーカードへの保存はできません**のでご注意ください。

5：撮影画像確認（すべての撮影モードで設定可能）

- 「**ON**」（初期設定）のときは、撮影直後に、撮影した画像が液晶モニターに自動的に表示されます。
- 「**OFF**」にすると、画像は自動表示されません。撮影した画像を確認したいときは ▶ ボタンを押してください。

6：フラッシュ調光補正（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

フラッシュの発光量を補正することができます。詳しくは「【応用編】撮影―内蔵フラッシュの設定を変更する」（P.47）をご覧ください。

【設定編】さらに細かい設定
カスタムメニュー

7：内蔵AF補助光（[icon]、[icon] 以外の撮影モードで設定可能）

- 「**ON**」（初期設定）のときは、ピント合わせの際に、必要に応じて自動的にAF補助光ランプが点灯します。ただし、カスタムメニュー「**2：AFモードの選択**」を「**AF-C**」にしたとき、または「**AF-A**」にして自動的にAF-Cが選ばれたときは、点灯しません。
- 「**OFF**」にすると、状況にかかわらず、AF補助光は発光しません。被写体が暗い場合などは、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります。

8：フォーカスエリア照明（すべての撮影モードで設定可能）

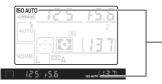
フォーカスエリアの照明のON/OFFを設定することができます。

- 「**AUTO**」（初期設定）のときは、マルチセレクターで選んだフォーカスエリアが、被写体の明るさに応じて自動的に赤く照明されます。
- 「**OFF**」にすると照明は常に点灯しません。
- 「**ON**」にすると常に点灯しますが、背景の明るさによっては、照明が見えない場合もあります。

カスタムメニュー「**9：感度自動設定**」と「**10：感度自動制御**」はどちらも、ISO感度の制御方法に関する設定項目です。以下の表を参考に、それぞれの項目を設定してください。

	撮影モード	
	AUTO、人物、風景、子供、スポーツ、接写、夜景人物	PSAM
ISO感度をカメラまかせにしたい	**9：感度自動設定：ON**	不可
自分で設定したISO感度に固定したい	**9：感度自動設定：OFF** **10：感度自動制御：OFF**	**10：感度自動制御：OFF**
ISO感度を自分で設定するが、その感度で適正露出が得られない場合は、感度を自動的に変えてほしい	**9：感度自動設定：OFF** **10：感度自動制御：ON**	**10：感度自動制御：ON**

9：感度自動設定（撮影モード AUTO、人物、風景、子供、スポーツ、接写、夜景人物で設定可能）

- 「**ON**」（初期設定）のときは、カメラが自動的にISO感度を決定します。表示パネルとファインダー内下部に、下のように表示されます。

- 「**OFF**」にすると、撮影メニューの「**ISO設定**」（P.48）で設定したISO感度に固定されます。

10：感度自動制御（すべての撮影モードで設定可能）

- 「OFF」（初期設定）のときは、撮影メニューの「**ISO設定**」（P.48）で設定したISO感度に固定されます。
- 「ON」にすると、通常は「**ISO設定**」で設定したISO感度で撮影しますが、設定した感度で適正露出が得られない場合には、カメラが自動的にISO感度を200～1600の範囲で変更します。表示パネルとファインダー内下部に、下のように表示されます。

- 点灯の場合は、「ISO感度」で設定した感度で撮影します。
- 点滅の場合は、「ISO感度」で設定した感度では適正露出が得られないため、カメラが感度を変更しています。

ヒント　撮影モード AUTO、（ポートレート）、（風景）、（こどもスナップ）、（スポーツ）、（クローズアップ）、（夜景ポートレート）、P、Aでの感度自動制御

上記の撮影モードで「**感度自動制御**」を「**ON**」にすると、シャッタースピードが一定の速度よりも遅くなったときだけ、感度が自動制御されます。たとえば「**1/30**」（初期設定）にすると、カメラが「設定されているISO感度では、シャッタースピードを1/30秒まで遅くしても、適正露出が得られない」と判断した場合は、自動的にISO感度を変更することによって、適正露出に近づけます。これによって、常に1/30秒以下の速いシャッタースピードに保たれます。

「**感度自動制御**」→「**ON**」→「**P、A、DIP**（デジタルイメージプログラム）**時選択**」を選ぶと、右の画面が表示されます。設定したいシャッタースピードを選んでください。

撮影モード**S**、**M**では、この機能は働きません。

感度自動制御についてのご注意

- 撮影モード AUTO、（ポートレート）、（風景）、（こどもスナップ）、（スポーツ）、（クローズアップ）、（夜景ポートレート）では、カスタムメニュー「**9：感度自動設定**」を「**OFF**」にしなければ、「**10：感度自動制御**」は設定できません。
- （**ISO**）ボタンを押したときに表示されるISO感度は、撮影メニューの「**ISO設定**」（P.48）で設定したISO感度です。自動制御によって変更された感度は表示されません。

関連ページ

【応用編】撮影—ISO感度を設定する（P.48）

11：露出値ステップ幅（すべての撮影モードで設定可能）

露出値（シャッタースピード、絞り、露出補正値、オートブラケティング補正量、調光補正値）を設定（または表示）するときの刻み幅（ステップ）を、「**1/3段**」と「**1/2段**」から選ぶことができます。初期設定は「**1/3段**」です。

12：オートブラケティング（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

露出値とフラッシュの発光量、またはホワイトバランスを基準から－側／＋側にずらして撮影します。

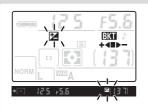
OFF （初期設定）	オートブラケティング撮影を行いません。
AEフラッシュブラケティング	シャッターボタンを押すたびに、露出とフラッシュの発光量をずらした画像が、3コマ続けて撮影されます。
WBブラケティング	シャッターボタンを1回押すと、ホワイトバランスをずらした3コマの画像が記録されます。画質モードが「RAW」、「RAW＋BASIC」のときは、選ぶことができません。

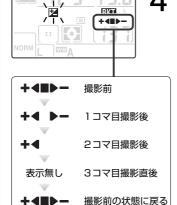
AEフラッシュブラケティング撮影の手順

1 左の画面で「**AEフラッシュブラケティング**」を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 左の画面で補正量を選び、▶を押します。

- 補正量は0.3（または0.5）※～2.0段の範囲で設定できます。

※カスタムメニュー「**11：露出値ステップ幅**」の設定によって、補正量は変化します。

3 シャッターボタンを半押しします。

- 表示パネルとファインダー内下部に、左のように表示されます。

4 構図を決め、1コマ目を撮影します。続けてシャッターをきり、2コマ目、3コマ目を撮影します。

- 「補正無し」→「－側に補正」→「＋側に補正」の順に撮影されます。
- 撮影するたびに、ブラケティングバーグラフが左のように変化します。
- 3コマ目の撮影が終わると、ステップ3の状態に戻ります。

5 ブラケティング撮影をやめ、通常撮影に戻るには、「**オートブラケティング**」を「**OFF**」にします。

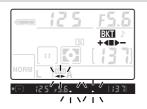
☑ AEフラッシュブラケティング撮影についてのご注意

- 連写モード（P.27）でシャッターボタンを押し続けても、3コマ撮影した時点で連写はストップします。
- 撮影の途中で**P**、**S**、**A**、**M**以外の撮影モードに変更すると、残りのブラケティング撮影は解除されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、再びONにすると、残りの撮影を再開できます。いったん電源をOFFにしてメモリーカードを交換したときも同様です。

WBブラケティング撮影の手順

1 左の画面で「**WBブラケティング**」を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 左の画面で補正量を選び、▶を押します。

- 補正量は1～3段の範囲で設定できます。

3 シャッターボタンを半押しします。

- 表示パネルとファインダー内下部に、左のように表示されます。

4 構図を決めて、シャッターをきります。

- 1回の撮影で3コマの画像が同時に記録されます。「補正無し」→「－側に補正」→「＋側に補正」の順に記録されます。
- メモリーカードに画像3コマ分の空き容量がない場合、シャッターはきれません。

5 ブラケティング撮影をやめ、通常撮影に戻るには、「**オートブラケティング**」を「**OFF**」にします。

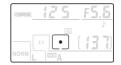
WBブラケティング撮影についてのご注意

連写モード（P.27）で撮影しても、単写モードと同様に、シャッターボタンを押すたびに1回ずつ撮影を行い、3コマの画像を記録します。

13：測光モード（撮影モードP、S、A、Mで設定可能）

適正な露出を得るために、カメラが被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。測光モードは、以下の３種類から選ぶことができます。

マルチパターン測光（初期設定）	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図など様々な情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
中央部重点測光	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。
スポット測光	フォーカスエリアに重なる部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲の露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 • 測光エリアは、フォーカスエリアに連動します。 • カスタムメニュー「**3：AFエリアモード設定**」（P.115）が「**至近優先ダイナミック**」のときは、中央のフォーカスエリアに相当する部分を測光します。

測光モードの設定は、表示パネルで確認できます。

✓ 測光モードについてのご注意

非CPUレンズをお使いの場合は、測光はできません。測光モードを選ぶこともできません。

> **ヒント　マルチパターン測光について**
>
> このカメラは、420分割RGBセンサーを搭載しています。GタイプまたはDタイプレンズ使用時は、このセンサーから得られる様々な情報を最大限に利用できる「3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ」という測光方式になります。その他のCPUレンズをお使いの場合は、距離情報を考慮しない「RGBマルチパターン測光Ⅱ」という測光方式になります。

AEロック撮影

AEロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。撮影モード**P**、**S**、**A**で利用できます。

1 **P**、**S**、**A**いずれかの撮影モードで、「**測光モード**」を「**スポット測光**」または「**中央部重点測光**」にします。

- 「**マルチパターン測光**」は充分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。

2 シャッターボタンを半押ししたまま AE-L AF-L ボタンを押すと、露出が固定（ロック）されます。

- AE-L AF-L ボタンを押している間は、選んだフォーカスエリア内（「**スポット測光**」の場合）、またはファインダー中央部（「**中央部重点測光**」の場合）を測光して得られた露出でロックされます。そのまま構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内下部にAEロック表示（**EL**）が点灯します。
- フォーカスモードが**AF**（オートフォーカス）の場合、ピントも同時にロックされるので、ピント表示●の点灯もご確認ください。

3 AE-L/AF-L ボタンを押したまま、構図を決めて撮影します。

ヒント シャッタースピードと絞り値の変更

通常は AE-L/AF-L ボタンを押している間もコマンドダイヤルで以下の操作ができます。

撮影モードP	プログラムシフト（P.52）
撮影モードS	シャッタースピードの変更
撮影モードA	絞り値の変更

関連ページ

AEロックの操作方法を変更する →
14：AE/AFロックボタン（P.127）、15：半押しAEロック（P.129）

14：AE/AFロックボタン（すべての撮影モードで設定可能）

AE-L/AF-L ボタンの役割を以下の表のように変更することができます。

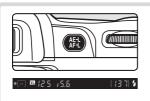
AE/AF同時ロック（初期設定）	AE-L/AF-L ボタンを押すと、AEロック（P.125）とフォーカスロック（P.41）が同時に行われます。
AEロックのみ	AE-L/AF-L ボタンを押すと、AEロック（P.125）だけが行われます。
AFロックのみ	AE-L/AF-L ボタンを押すと、フォーカスロック（P.41）だけが行われます。
AEロック維持	AE-L/AF-L ボタンを押すと、AEロック（P.125）状態が維持され、もう一度押すと解除されます。
AF AF作動	AE-L/AF-L ボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。シャッターボタンを半押ししても、オートフォーカスは作動しないのでご注意ください。
FVロック	AE-L/AF-L ボタンを押すと、FVロック（下記）状態が維持され、もう一度押すと解除されます。

FVロック撮影の手順

フラッシュの発光量を固定することで、発光量をメインの被写体に合わせたまま構図を変えて撮影したり、同じ発光量を維持したまま撮影したりすることができます。

1 左の画面で「**FVロック**」を選び、マルチセレクターの▶を押します。

2 発光量を合わせたい被写体をファインダー中央でとらえ、シャッターボタンを半押しします。

- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**のときは、事前に ボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップ（上がる）させてください。

3 ファインダー内下部に が点灯していることを確認し、 ボタンを押します。

- 発光量計算のため、内蔵フラッシュが本発光の前に少量発光し、発光量がロックされます。ファインダー内下部に左のように表示されます。

4 構図を変えて撮影します。

- 続けてシャッターをきると、発光量を固定したまま繰り返し撮影できます。
- FVロックを解除するには、もう一度 ボタンを押します。

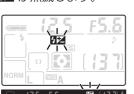
15：半押しAEロック（すべての撮影モードで設定可能）

- 「ON」にすると、シャッターボタンを半押ししたときに、AEロック（P.125）が行われます。
- 「OFF」（初期設定）のときは、AEロックは行われません。

16：内蔵フラッシュ発光（撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定可能）

内蔵フラッシュの発光制御方法を設定します。

- 「**TTLモード**」（初期設定、P.163）のときは、発光量が自動的に制御されます。

- 「**マニュアル発光モード**」を選ぶと、右の画面が表示され、内蔵フラッシュの発光量を設定できます。このモードにすると、表示パネルとファインダー内下部に調光補正マーク が点滅します。

ヒント **フル発光時の内蔵フラッシュのガイドナンバー**

「**Full**」（フル発光、初期設定）での内蔵フラッシュのガイドナンバーは約17（ISO200・m、20℃）/約12（ISO100・m、20℃）です。

17：液晶モニターパワーオフ（すべての撮影モードで設定可能）

液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。初期設定は「**20秒**」です。

- 液晶モニターの表示時間を延長するとバッテリーの消耗が速くなります。
- 別売のACアダプター EH-5を接続しているときは、この設定にかかわらず、液晶モニターは操作終了後、約10分で自動的に消灯します。

18：半押しタイマー（すべての撮影モードで設定可能）

このカメラは、シャッターボタンを半押ししてから、何も操作しないで一定時間が過ぎると、バッテリーの消耗を抑えるために待機状態に入ります。ここでは、待機状態になるまでの時間を変更できます。初期設定は「**8秒**」です。

- 待機状態になると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示、ファインダー内下部が消灯します（別売のACアダプター EH-5接続中は消灯しません）。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が速くなります。

19：セルフタイマー（すべての撮影モードで設定可能）

セルフタイマー撮影（P.28）時に、シャッターボタンを押してからシャッターがきれるまでの時間を変更できます。初期設定は「**10秒**」です。

20：リモコン待機時間（すべての撮影モードで設定可能）

リモコン撮影（P.28）時に、カメラがリモコンからの信号を待ち受ける時間を変更できます。初期設定は「**1分**」です。

- リモコンモードにしてから、リモコン撮影をしないままで受信待機時間が過ぎると、リモコンモードが解除されます。

撮影モード別：設定できる機能一覧

それぞれの撮影モードごとに、設定できる機能とできない機能をまとめました。表の見方は以下の通りです。

● ：設定できます。ツーボタンリセット（P.61）で初期設定に戻ります。
◎ ：設定できます。カスタムメニュー「**R：リセット**」（P.113）で初期設定に戻ります。
○ ：設定できます。撮影モードを切り換えると初期設定に戻ります。
△ ：設定できます。設定を元に戻さない限り、初期設定には戻りません。
無印：設定できません。

		AUTO							P	S	A	M
撮影メニュー	仕上がり設定（P.58）								●	●	●	●
	ノイズ除去（P.99）	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	画質モード（P.37）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	画像サイズ（P.38）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ホワイトバランス（P.59）								●	●	●	●
	ISO設定（P.48）	●※	●※	●※	●※	●※	●※	●※	●	●	●	●
撮影関連の設定	単写／連写モード（P.27）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	プログラムシフト（P.52）								●			
	AEロック（P.125）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	露出補正（P.57）								●	●	●	
	フラッシュモード（P.44）	○ ●	○ ●		○ ●		○ ●	○ ●	●	●	●	●

※カスタムメニュー「**9：感度自動設定**」が「**OFF**」のときに設定できます。

		AUTO							P	S	A	M
カスタムメニュー	1：電子音設定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	2：AFモードの選択								◎	◎	◎	◎
	3：AFエリアモード設定	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎ ○	◎	◎	◎	◎
	4：カード無時レリーズ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	5：撮影画像確認	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	6：フラッシュ調光補正								● ◎	● ◎	● ◎	● ◎
	7：内蔵AF補助光	◎	◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎
	8：フォーカスエリア照明	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	9：感度自動設定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	10：感度自動制御	◎※	◎※	◎※	◎※	◎※	◎※	◎※	◎	◎	◎	◎
	11：露出値ステップ幅	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	12：オートブラケティング								● ◎	● ◎	● ◎	● ◎
	13：測光モード								● ◎	● ◎	● ◎	● ◎
	14：AE/AFロックボタン	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	15：半押しAEロック	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	16：内蔵フラッシュ発光								◎	◎	◎	◎
	17：液晶モニターパワーオフ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	18：半押しタイマー	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	19：セルフタイマー	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	20：リモコン待機時間	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※カスタムメニュー「**9：感度自動設定**」が「**OFF**」のときに設定できます。

撮影モード別：初期設定一覧

ご購入時のカメラの設定についてまとめました。

ツーボタンリセット（P.61）で初期設定に戻る項目

		AUTO							P	S	A	M
撮影メニュー	仕上がり設定（P.58）	——							標準			
撮影メニュー	画質モード（P.37）	NORMAL										
撮影メニュー	画像サイズ（P.38）	L										
撮影メニュー	ホワイトバランス（P.59）	——							オート			
撮影メニュー	ISO設定（P.48）	——（カスタムメニュー「9：感度自動設定」が「OFF」のときは200）							200			
撮影関連の設定	単写／連写モード（P.27）	単写										
撮影関連の設定	フォーカスエリア（P.40）	——				中央		——	中央			
撮影関連の設定	フォーカスロック（P.41）	OFF（解除）										
撮影関連の設定	プログラムシフト（P.52）	——							OFF（解除）	——		
撮影関連の設定	AEロック（P.125）	OFF（解除）										
撮影関連の設定	露出補正（P.57）	——							OFF（0.0）			
撮影関連の設定	フラッシュモード（P.44）	※1		—	※1	—	※1	※2	通常発光			
カスタムメニュー	6：フラッシュ調光補正	——							0.0			
カスタムメニュー	12：オートブラケティング	——							OFF			
カスタムメニュー	13：測光モード	——							マルチパターン測光			

※1 通常発光オート

※2 通常発光オート＋スローシャッター

カスタムメニューの「R：リセット」（P.113）で初期設定に戻る項目

	AUTO							P	S	A	M
1：電子音設定	ON										
2：AFモードの選択	——							AF-A			
3：AFエリアモード設定	至近優先ダイナミック				※1	シングル	※2	シングル			
4：カード無時レリーズ	レリーズ禁止										
5：撮影画像確認	ON										
6：フラッシュ調光補正	——							0.0			
7：内蔵AF補助光	ON		OFF固定	ON	OFF固定	ON					
8：フォーカスエリア照明	AUTO										
9：感度自動設定	ON							——			
10：感度自動制御	OFF										
11：露出値ステップ幅	1/3段										
12：オートブラケティング	——							OFF			
13：測光モード	——							マルチパターン測光			
14：AE/AFロックボタン	AE/AF同時ロック										
15：半押しAEロック	OFF										
16：内蔵フラッシュ発光	——							TTLモード			
17：液晶モニターパワーオフ	20秒										
18：半押しタイマー	8秒										
19：セルフタイマー	10秒										
20：リモコン待機時間	1分										

※1 ダイナミック（中央）

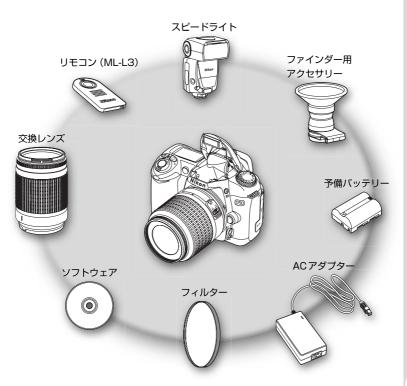
※2 至近優先ダイナミック

その他の項目の初期設定

撮影メニュー	ノイズ除去 (P.99)	しない
再生メニュー	再生フォルダー設定 (P.108)	記録中のフォルダー
	縦位置自動回転 (P.109)	する
セットアップメニュー	メニュー表示切換 (P.86)	シンプルメニュー
	画面の明るさ (P.87)	0
	ビデオ出力 (P.87)	NTSC
	言語 (P.87)	日本語
	画像コメント (P.88)	添付しない
	USB設定 (P.89)	Mass Storage
	連番モード (P.92)	OFF
	姿勢情報記録 (P.95)	する

以上の項目は、ツーボタンリセットやカスタムメニューのリセットでは初期設定に戻りません。設定を変更するには、それぞれのメニュー項目を直接操作してください。

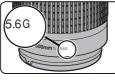
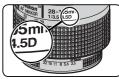
別売アクセサリー

アクセサリーを活用して、撮影の幅を広げることができるのも、デジタル一眼レフカメラの楽しみのひとつです。D50には、以下のようなニコン製アクセサリーが用意されています。

アクセサリーについてのご注意

D50には、ニコン製のアクセサリーをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリーは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリー使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。

装着できるレンズ

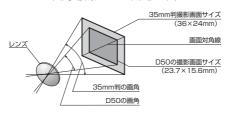
CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。とくにGタイプ・Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。Gタイプレンズには、絞りリングがありません。

CPUレンズ

Gタイプレンズ

Dタイプレンズ

ヒント レンズの画角と焦点距離について

D50には、さまざまなニコン一眼レフカメラ用レンズを装着することができます。ただし、これらのレンズをD50に装着したときの画角は、レンズに表記されている焦点距離の1.5倍のレンズに相当する画角になります。これは、35mm判カメラの撮影画面サイズ（36×24mm）に対して、D50の撮影画面（約23.7×15.6mm）が小さいためです。このため、同じレンズで撮影しても、D50と35mm判カメラでは、画角（撮影される範囲）が異なることにご注意ください。

非CPUレンズについてのご注意

非CPUレンズ装着時は、撮影モード**M**で撮影してください。**M**以外では、シャッターがきれません。カメラの露出計や、コマンドダイヤルによる絞りの設定、i-TTLモードでのフラッシュ撮影の各機能は使うことができません。絞りの設定や確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

装着できるレンズ一覧

		フォーカスモード			撮影モード		測光モード	
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	**M**以外	**M**	マルチパターン測光	中央重点／スポット測光
CPUレンズ（※2）	Gタイプレンズ（※3）、Dタイプレンズ（※3）、AF-Iレンズ、AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	○	○※1
	PCマイクロ 85mm f/2.8D（※4）	×	○※5	○	×	○	○	○※1
	AF-S ／ AF-Iテレコンバーター（※6）	○※7	○※7	○	○	○	○	○※1
	Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	○※8	○※8	○	○	○	○	○※1
	Ai-Pニッコール	×	○※9	○	○	○	○	○※1
非CPUレンズなど（※10）	Ai-S、Ai、シリーズEレンズ、改造Aiレンズ	×	○※9	○	×	○※11	×	×
	メディカル120mm f/4	×	○	○	×	○※12	×	×
	レフレックスレンズ	×	×	○	×	○※11	×	×
	PCニッコール	×	○※5	○	×	○※11	×	×
	Ai-S、Aiテレコンバーター	×	○※7	○	×	○※11	×	×
	ベローズPB-6（※13）	×	○※9	○	×	○※11	×	×
	オート接写リング（PK-11A、12、13、PN-11）	×	○※9	○	×	○※11	×	×

※1　CPUレンズ装着時は、フォーカスエリア選択によりスポット測光エリアを移動可（P.124）。
※2　IXレンズは装着不可。
※3　VRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応。
※4　カメラの測光モードおよび調光制御機能は、あおり操作（シフトまたはティルト）中、または開放絞り以外では、正しく機能しません。
※5　あおり操作を行っていない場合のみ可。
※6　AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用（ただしAF-S DX 12～24mm f/4G、AF-S ED 17～35mm f/2.8D、AF-S DX ED 17～55mm f/2.8G、AF-S DX ED 18～70mm f/3.5～4.5G、AF-S ED 24～85mm f/3.5～4.5G、AF-S VR ED 24～120mm f/3.5～5.6G、AF-S ED 28～70mm f/2.8Dは使用不可）。
※7　合成絞りがf/5.6 以上明るい場合に使用可。
※8　AF 80～200mm f/2.8S、AF 35～70mm f/2.8S、AF 28～85mm f/3.5～4.5S（New）、AF 28～85mm f/3.5～4.5Sレンズで、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。この場合は、ファインダースクリーンのマット面を利用して、マニュアルフォーカスでピントを合わせて撮影してください。
※9　開放絞りがf/5.6以上明るいレンズのみ使用可。
※10　一部装着不可能なレンズ（P.140）があります。
※11　露出インジケーターは使用不可。
※12　シャッタースピード1/125秒以下で使用可。露出インジケーターは使用不可。
※13　縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。

使用できないレンズについてのご注意

- 以下の非CPUレンズは装着できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損するのでご注意ください。
  - ・AFテレコンバーター TC-16AS
  - ・Ai改造をしていないレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
  - ・フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
  - ・フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
  - ・旧21mm f/4
  - ・K2リング
  - ・ED180～600mm f/8（製品No.174041～174180）
  - ・ED360～1200mm f/11（製品 No.174031～174127）
  - ・200～600mm f/9.5（製品 No.280001～300490）
  - ・F3AF用（80mm f/2.8、200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
  - ・PC28mm f/4（製品 No.180900以前の製品）
  - ・PC35mm f/2.8（製品 No.851991～906200）
  - ・旧PC35mm f/3.5
  - ・旧レフレックス1000mm f/6.3
  - ・レフレックス1000mm f/11（製品 No.142361～143000）
  - ・レフレックス2000mm f/11（製品 No.200111～200310）

AF補助光撮影（P.41）に制限のあるレンズについてのご注意

- 以下のレンズではAF補助光を使ってのオートフォーカス撮影はできません。
  - ・AF-S VR ED 70～200mm f/2.8G
  - ・AF-S ED 80～200mm f/2.8D
  - ・AF ED 80～200mm f/2.8D
  - ・AF VR ED 80～400mm f/4.5～5.6D
  - ・AF-S VR ED 200～400mm f/4G
  - ・AF-S VR 200mm f/2G
  - ・AF-S VR 300mm f/2.8G
- 以下のレンズでは、撮影距離1m以内でAF補助光がレンズによってさえぎられる場合があります。この場合、AF補助光を使ってのオートフォーカス撮影はできません。
  - ・AFマイクロED 200mm f/4D
  - ・AF ED 24～85mm f/2.8～4D
  - ・AF-S ED 17～35mm f/2.8D
  - ・AF-S VR ED 24～120mm f/3.5～5.6G
  - ・AF ED18～35mm f/3.5～4.5D
  - ・AF24～120mm f/3.5～5.6D
  - ・AF20～35mm f/2.8D
  - ・AFマイクロED 70～180mm f/4.5～5.6D
  - ・AF-S ED 28～70mm f/2.8D
  - ・AF-S DX ED 17～55mm f/2.8G (IF)

内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについてのご注意

- 以下のAFレンズではフラッシュの光がさえぎられるため、内蔵フラッシュ撮影が可能な焦点距離や撮影距離に制限があります。

レンズ	内蔵フラッシュ撮影が可能な条件
AF-S DX ED 12～24mm f/4G	焦点距離20mmのとき：撮影距離2.5m以上 焦点距離24mmのとき：撮影距離1m以上
AF-S ED 17～35mm f/2.8D	焦点距離20mm、24mmのとき：撮影距離2.5m以上 焦点距離28mmのとき：撮影距離1m以上 焦点距離35mmでは撮影距離制限なし
AF-S DX ED 17～55mm f/2.8G（IF）	焦点距離20mm、24mmのとき：撮影距離2.5m以上 焦点距離28mmのとき：撮影距離1.5m以上 焦点距離35mmのとき：撮影距離0.7m以上 焦点距離45mm以上は撮影距離制限なし
AF ED 18～35mm f/3.5～4.5D	焦点距離18mm、21mmのとき：撮影距離2m以上 焦点距離24mmのとき：撮影距離0.7m以上 焦点距離28mm以上は撮影距離制限なし
AF 20～35mm f/2.8 D	焦点距離20mmのとき：撮影距離1.5m以上 焦点距離24mmのとき：撮影距離1m以上 焦点距離28mm以上は撮影距離制限なし
AF-S VR ED 24～120mm f/3.5～5.6G	焦点距離24mmのとき：撮影距離0.8m以上 焦点距離28mm以上は撮影距離制限なし
AF-S ED 28～70mm f/2.8 D	焦点距離28mmのとき：撮影距離3m以上 焦点距離35mmのとき：撮影距離1m以上 焦点距離50mm以上は撮影距離制限なし
AF-S VR ED 200～400mm f/4G	焦点距離200mmのとき：撮影距離4m以上 焦点距離250mmのとき：撮影距離2.5m以上 焦点距離300mm以上は撮影距離制限なし
AF-S 18～70mm f/3.5～4.5G	焦点距離18mmのとき：撮影距離1m以上 焦点距離24mm以上は撮影距離制限なし

赤目軽減（P.44）についてのご注意

レンズの種類によっては、AF補助光ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に充分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

装着できる別売スピードライト（フラッシュ）

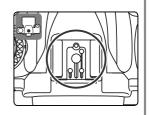
別売スピードライトを装着するときは、アクセサリーシューカバーを取り外してください。なお、別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光しません。

D50は「ニコン クリエイティブライティングシステム」に対応しています。別売スピードライトSB-800、SB-600と組み合わせることで、i-TTL調光（P.163）、FVロック（P.127）、発光色温度情報の伝達など、さまざまな機能が利用できます（P.143）。詳しくは各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

SB-800、SB-600の特徴

- ガイドナンバー53（SB-600は42）（照射角35mm時、ISO200・m、20℃）／38（SB-600は30）（照射角35mm時、ISO100・m、20℃）の高性能スピードライトです。
- フラッシュヘッドが上方向90°から下方向7°、左方向180°から右方向90°（SB-600は上方向90°、左方向180°から右方向90°）の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影ができます。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を24～105mm（SB-600は24～85mm）の範囲で変化させるオートパワーズーム機能を備えています。また、内蔵ワイドパネルを使うと、照射角が14mm、17mm（SB-600は14mmのみ）になります。
- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、イルミネーターを備えています。

ヒント アクセサリーシュー

このカメラはアクセサリーシューを装備しています。別売スピードライトSB-800・SB-600・80DX・28DX・28・27・23・22S・29Sなどを、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。また、セーフティロック機構（ロック穴）を備えているので、セーフティロックピン付きのスピードライト（SB-800、SB-600など）を取り付けると、スピードライトが不用意に外れることを防止できます。

ヒント ホットシューアダプター AS-15

別売のホットシューアダプターAS-15を装着すると、シンクロターミナルが利用できます。

SB-800、SB-600との組み合わせで利用できる機能

以下の機能が利用できます。
装着レンズ欄の①はCPUレンズ（IXニッコール、F3AF用を除く）、②は非CPUレンズを示しています。

スピードライト			SB-800				SB-600			
			1灯、カメラに装着		補助灯として使用		1灯、カメラに装着		補助灯として使用	
装着レンズ			①	②	①	②	①	②	①	②
区分	i-TTL	i-TTL-BL調光	○※1		○		○※1		○	
		スタンダードi-TTL調光	○※2				○※2			
	AA	絞り連動外部自動調光	○		○					
	A	外部自動調光	○	○		○				
	GN	距離優先マニュアル調光	○※3	○※4						
	M	マニュアル	○	○	○	○	○	○	○	○
		発光色温度情報伝達	○	○			○	○		
		FVロック	○		○		○		○	
		マルチエリアアクティブ補助光	○※5				○※5			
	RPT	リピーティングフラッシュ	○	○	○	○			○	○
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○	○	○	○
		赤目軽減発光	○	○			○	○		
		オートズーム	○				○			
		感度自動制御（カスタムメニュー10）	○				○			

※1　測光モードをスポット測光以外にしてください。
※2　測光モードをスポット測光にしてください。また、スピードライト側でも設定できます。
※3　カメラの絞りに連動します。
※4　レンズで設定した絞り値をスピードライト側でも設定する必要があります。
※5　AFレンズ装着時のみ可能です。

その他の別売スピードライトとの組み合わせで利用できる機能

以下の別売スピードライトで撮影する時は、外部自動調光（A）あるいはマニュアル発光撮影となります。TTLモードでは、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

		スピードライト	SB-80DX SB-28DX	SB-50DX	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27※1 SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29※2 SB-21B※2 SB-29S※2
区分	A	外部自動調光	○		○	○	
	M	マニュアル	○	○	○	○	○
	⚡⚡⚡	マルチフラッシュ	○		○		
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 SB-27はD50と組み合わせると自動的にTTLモードに設定されますが、TTLモードでは使うことができません。SB-27を強制Aモードに設定しなおしてください。

※2 SB-29S・29・21B使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm・105mm・200mm・70～180mm）レンズ装着時のみ可能です。

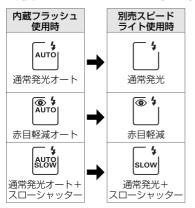
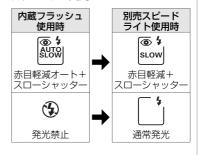
✔ 他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）は装着しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラやフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

撮影モード AUTO、、、、 での別売スピードライト使用についてのご注意

別売スピードライト装着時は、内蔵フラッシュは発光せず、常に別売スピードライトが発光します。フラッシュモード（P.44）は以下のように変更されます。

内蔵フラッシュ使用時		別売スピードライト使用時
通常発光オート	→	通常発光
赤目軽減オート	→	赤目軽減
通常発光オート＋スローシャッター	→	通常発光＋スローシャッター

内蔵フラッシュ使用時		別売スピードライト使用時
赤目軽減オート＋スローシャッター	→	赤目軽減＋スローシャッター
発光禁止	→	通常発光

撮影モード 、 で別売スピードライトを使用すると、通常発光モードになります。赤目軽減モードに変更することもできます。

別売スピードライト使用時のご注意

- 詳しくはスピードライトの使用説明書をご覧ください。

  ニコンクリエイティブライティングシステム対応の別売スピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、「クリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフ」に該当する箇所をお読みください。なお、D50はSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載されているデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- 別売スピードライト使用時の同調シャッタースピードは1/500秒以下（低速側）です。
- i-TTLや外部自動調光モードで、フル発光により露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にファインダー内下部の が約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO200～1600相当です。
- 別売スピードライトSB-800、SB-600使用時で、赤目軽減発光を行うフラッシュモードの場合は、外部スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- SB-800、SB-600以外の別売スピードライトとの組み合わせでは、被写体が暗い場合でも、スピードライトのアクティブ補助光は発光せず、カメラのAF補助光（P.41）が発光します。

別売スピードライト使用時のご注意（つづき）

- D50とSB-800、SB-600以外の別売スピードライトの組み合わせでは、オートパワーズーム機能は使用できません。
- 撮影モードによっては、ISO感度（P.48）の設定によって、カメラが自動で設定する別売スピードライトの開放側の限界絞りが、以下のように制御されます。

  撮影モード AUTO、、、、、、P：

ISO感度	200	400	800	1600
開放側の限界絞り（F）	4	4.8	5.6	6.7

  撮影モード ：

ISO感度	200	400	800	1600
開放側の限界絞り（F）	8	9.5	11	13

  ※ 感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使ってカメラからスピードライトを離して撮影する場合、i-TTL-BL調光では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネル以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露光にならない場合があります。
- 別売スピードライトSB-800、SB-600を使うときは、測光モードを（スポット測光）にすると、スタンダードi-TTL調光になります。
- 非CPUレンズ装着時は、i-TTL調光およびAA（絞り連動外部自動調光）は行えません。

その他の別売アクセサリー

電源	• **Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3a** 付属のバッテリーと同じものを、予備バッテリーとしてお求めいただけます。 • **AC アダプター EH-5** 安定して電源を供給できるACアダプターです。 • **マルチチャージャー MH-19** EN-EL3aを2個と、MN-30（F5用、MC-E1使用)、MN-15(F100用、MC-E2使用)、EN-4(D1シリーズ用)、EN-3(E3用)のいずれかを2個の、計4個のバッテリーを順番に充電できます。自動車のシガーソケットでの充電も可能です。
ファインダー用アクセサリー	• **接眼補助レンズ** 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えができます。－5、－4、－3、－2、0、＋0.5、＋1、＋2、＋3m^{-1}の9種類があります（いずれもD50の視度調節レバーが基準位置（－1m^{-1}）の場合の値です）。D50の視度調節機能（－1.6～＋0.5m^{-1}）を超える視度補正が必要なときにお使いください。視度補正の効果は個人差が大きいので、店頭で実際に取り付けてお選びください。なお、接眼補助レンズをお使いになるときは、接眼目当ては装着できません。 • **マグニファイヤー DG-2** ファインダー中央部の像を拡大します。接写や複写、超望遠レンズでの撮影など、より厳密なピント合わせが必要なときに使います。装着には、別売のアイピースアダプターが必要です。 • **アイピースアダプター** 上記DG-2をD50に取り付けるためのアダプターです。 • **アングルファインダー DR-6** カメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。
ボディキャップ BF-1A	レンズを取り外したカメラボディに取り付けることにより、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやホコリの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。
リモコン ML-L3	ワイヤレスでシャッターをきることができ、記念写真などに便利です。また、手ブレを防止するケーブルレリーズの代わりとしても利用できます。 リモコン用電池（CR2025型3Vリチウム電池）の交換方法 ① ② ③ ④ ⑤

フィルター	• ニコンフィルターには、大きく分けてねじ込み式、組み込み式、後部交換式の3方式があります。他社製の特殊フィルターなどをお使いの場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドができない場合がありますのでご注意ください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）はお使いになれません。円偏光フィルター（C-PL）をお使いください。 • フィルターをレンズ保護のために常に装着しておくときは、L37C、またはNCフィルターをおすすめします。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影するときは、フィルターによって画像上にゴーストが発生する恐れがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y48、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND4S、ND8S、A2、A12、B2、B8、B12）では、「**測光モード**」（P.124）を「**中央部重点測光**」にして撮影することをおすすめします。「**マルチパターン測光**」では、充分な効果が得られない場合があります。詳しくは、フィルターの使用説明書をご覧ください。
ソフトウェア Nikon Capture 4 （Ver.4.3以降）	D50で撮影した画像を加工したり、パソコンからD50を操作して画像を撮影し、撮影した画像をハードディスクに直接保存することなどができます。D50はVer.4.3以降に対応しています。

推奨メモリーカード

以下のSDメモリーカードの動作を確認しています。

SanDisk社製	64MB、128MB、256MB、512MB、1GB
東芝製	64MB、128MB、256MB、512MB
Panasonic製	64MB、128MB、256MB、512MB、1GB

※上記カードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、各カードメーカーにご相談ください。他のメーカー製のカードについては、動作の保証はいたしかねます。

メモリーカードについてのご注意

• 必ずD50でフォーマット（初期化）してからお使いください。
• フォーマット中や画像の記録・削除中、パソコンとの通信時などに、次のことは行わないでください。記録されているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  ・カードの着脱をする　　・カメラの電源をOFFにする
  ・バッテリーを取り出す　・ACアダプターを抜く
• 端子部に手や金属を触れないでください。
• 無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
• 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
• 熱、水分、直射日光を避けてください。

カメラとレンズのお手入れ

保管について

長期間カメラをお使いにならないときは、必ずバッテリーを取り出しください。バッテリーを取り出す前に、電源がOFFになっていることをご確認ください。

カメラを保管するときは、以下のような場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所
- 湿度が60%を超える場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使った後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 **ご注意：カメラ内部にゴミやほこり、砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。**
レンズ・ミラー・ファインダー	ほこりや糸くずは、ブロアーで払います。スプレー缶式のブロアーの場合は、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つける恐れがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニター	ほこりや糸くずは、ブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがあるのでご注意ください。

✔ 液晶モニターが破損したときのご注意

液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片でけがをしないようにご注意ください。また、液晶が皮膚や口、目に付かないようにご注意ください。

✔ 表示パネルの明るさの変動についてのご注意

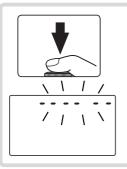
まれに、ブロアーや布から起きた静電気で、表示パネルが明るくなったり暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。すぐに通常の状態に戻ります。

ローパスフィルターのお手入れ

撮像素子の表面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付いていると、画像に影が写り込むことがあります。ローパスフィルターは以下の手順でクリーニングすることができますが、非常に傷つきやすいため、ニコンサービスセンターにクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

作業中のバッテリー切れを防ぐため、フル充電したバッテリー、または別売のACアダプター EH-5をお使いください。

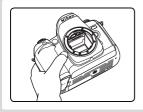
1 セットアップメニュー（P.85）の「**クリーニングミラーアップ**」で「**する**」を選びます。

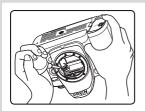
- 「シャッターボタンを押してください」と表示されます。

2 シャッターボタンを押し込みます。

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- 表示パネルに、左のように表示されます。

☑ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- とくに業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

3 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミが付いていないかどうかを点検します。

- ゴミやほこりが付いていない場合は、ステップ**5**にお進みください。

4 ローパスフィルターに付いたゴミをブロアーで払います。

- ブラシの付いていないブロアーをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービスセンターにクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

5 電源をOFFにし、付属のボディキャップをつけます。

- ミラーが下がり、シャッター幕が閉じます。

☑ 撮像素子表面ゴミ付着についてのご注意

ニコンデジタルカメラは撮像素子表面に付着するゴミについて、当社の品質基準に基づいて製造、出荷しています。しかし、D50はレンズ交換方式のため、レンズ交換の際にカメラ内にゴミが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子表面に付着したゴミが写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。その際、ボディキャップのゴミも必ず除去してください。撮像素子表面に付着したゴミは、上記の手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービスセンターにクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、別売のNikon Capture 4（Ver.4.3以降）や画像加工アプリケーションなどで修正できます。

カメラと付属品の取り扱い上のご注意

カメラとレンズの取り扱い上のご注意

●強いショックを与えないでください

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●水にぬらさないでください

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

●急激な温度変化を与えないでください

極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

●強い電波や磁気の発生する場所で撮影しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しない場合があります。

●長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼きつきを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

●ブルーミングについて

太陽などの高輝度被写体を撮影すると、画面の上下方向にブルーミングと呼ばれる白い帯が発生することがあります。このような場合はシャッタースピードを低速側にして絞りを絞るか、ND フィルターを使うことで、撮像素子に直接当たる光量を低下させ、ブルーミングの発生を抑えることができます。

●カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

●ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやホコリが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶方式のブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

●ローパスフィルターの手入れ方法について

ローパスフィルターのクリーニングの方法についてはP.150 をご覧ください。

●レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

●シャッター幕に触れないでください

シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。

●風通しのよい場所に保管してください

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏季の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管してください

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液漏れなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

●バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください

カメラの電源がONの状態で、バッテリーの取り出しやACアダプターの取り外しを行うと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

●液晶モニターについて

- 液晶モニターの特性上、常時点灯あるいは非点灯の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。予めご了承ください。また、記録される画像には影響ありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくい場合があります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

バッテリーの取り扱いについて

●接点の汚れについて

バッテリーの接点が汚れている場合は、乾いた布などで拭いてください。

●バッテリーに関する使用上のご注意

バッテリーの使用方法を誤ると液漏れにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。

- バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れてください。
- バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるのでご注意ください。
- 必ず指定のバッテリーをお使いください。
- バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしないでください。
- カメラから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付けてください。

●撮影の前にバッテリーをあらかじめ充電してください

撮影の際は、バッテリーの充電を行ってください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていないので、ご注意ください。

●予備バッテリーを用意してください

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

●低温時には充分に充電されたバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意してください

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しない場合があります。低温時には充分に充電されたバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

●バッテリーの残量について

電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON／OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してご使用ください。

●バッテリーのリサイクルについて

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは廃棄せず、再利用のためリサイクルにご協力ください。端子にテープなどを貼り付けて絶縁させてから、ニコンサービスセンターやリサイクル協力店へご持参ください。

Li-ion

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービスセンターにお問い合わせになる前に、以下の項目をご確認ください。

表示関連

症状	ここをご確認ください	ページ
ファインダー内がはっきり見えない	視度調節レバーで調節してください。調節後も見え方が不充分な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いください。	P.17、147
ファインダー内が暗い	バッテリー残量は充分ですか？　バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量が無い場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります。	P.18
ファインダー内や表示パネル、液晶モニターの表示が、すぐに消えてしまう	カスタムメニュー「**17：液晶モニターパワーオフ**」「**18：半押しタイマー**」で、表示が消えるまでの時間を設定することができます。	P.130
表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しない	下記の「デジタルカメラの特性について」をご覧ください。	—
表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い	低温や高温のときは液晶表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなる場合があります。	—
ファインダー内に赤い線や模様が見える	液晶の特性上、フォーカスエリアなどから外側に延びる細い線が見えたり、フォーカスエリアを照明するときにファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。	—

デジタルカメラの特性についてのご注意

きわめてまれに、表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。この場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し（ACアダプター使用時はいったん外してから付け直し）、もう一度電源をONにしてください。このときバッテリーが熱くなっていることがあるので、取り扱いには充分にご注意ください。

状態が改善されない場合は、リセットスイッチ（右図）を押してください。このときカメラの内蔵時計はリセットされます。また、カメラが作動しなくなった時のデータが失われるおそれがあります。

さらに不具合が続く場合は、ニコンサービスセンターにお問い合わせください。

リセットスイッチ

撮影関連（全撮影モード共通）

症状	ここをご確認ください	ページ
電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる	メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。	—
シャッターがきれない	• レンズの絞りリングは最小絞り（最も大きい値）になっていますか？ • メモリーカードがロックされていませんか？ • 残量のあるメモリーカードが入っていますか？ • 内蔵フラッシュの充電中はシャッターがきれません。 • ピント表示●は点灯していますか？ • CPUレンズが装着されていますか？　非CPUレンズは撮影モード**M**以外ではお使いになれません。	P.9 P.14 P.19 P.23 P.21 P.55、138
ファインダーで見た視野と、撮影される画像の範囲が違う	このカメラのファインダー視野率は上下左右とも約95%です。このため、ファインダーで見た視野よりも、やや広い範囲が撮影されます。	P.165
ピントが合わない	• マニュアルフォーカスになっていませんか？　オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードダイヤルを**AF**に合わせてください。 • 以下のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください。 明暗差がはっきりしない／遠くのものと近くのものが混在する／連続した繰り返しパターン／輝度差が著しく異なる／背景に対して主要被写体が小さい／絵柄が細かい	P.19 P.41、43
一部のメニュー項目が表示されない	セットアップメニュー「**メニュー表示切換**」を「**アドバンストメニュー**」にしてください。	P.86
画像サイズが変更できない	「**画質モード**」が「**RAW**」、「**RAW＋BASIC**」のときは、画像サイズを変更できません。	P.37
フォーカスエリアを選択できない	• カスタムメニュー「**3：AFエリアモード設定**」が「**至近優先ダイナミック**」のときは、選択できません。 • 液晶モニターが点灯していませんか？　液晶モニターの点灯中はフォーカスエリアを選択できません。	P.115 P.40
画像の記録に時間がかかる	撮影メニュー「**ノイズ除去**」が「**する**」になっていませんか？	P.99
画像がざらつく	• ISO感度が高くなっていませんか？ • シャッタースピードが約1秒よりも低速な場合は、ノイズが発生しやすくなります。撮影メニュー「**ノイズ除去**」を「**する**」にして撮影すれば、ざらつきを軽減できます。	P.105 P.99

症状	ここをご確認ください	ページ
AF補助光ランプが光らない	• 撮影モード 、 では、AF補助光は点灯しません。 • カスタムメニュー「**2：AFモードの選択**」が「**AF-C**」のとき、または「**AF-A**」で自動的にAF-Cが選ばれたときは、AF補助光は点灯しません。 • カスタムメニュー「**7：内蔵AF補助光**」が「**OFF**」になっていませんか？ • AF補助光ランプを連続して使うと、保護機能が働いて一時的に点灯が制限されます。少し時間をおくと再び点灯するようになります。また、短時間に何回も使うと、AF補助光ランプが熱くなることがあるのでご注意ください。	P.41 P.114 P.117 —
リモコンの送信ボタンを押しても撮影できない	• リモコンの電池残量はありますか？ • リモコンモードに設定されていますか？ • 送信ボタンを押す前にカスタムメニュー「**20：リモコン待機時間**」を過ぎると、リモコンモードはリセットされます。 • 極端な逆光状態では、リモコン撮影ができない場合があります。	P.147 P.28 P.131 —
画像にゴミが写り込む	• レンズが汚れていませんか？ • ローパスフィルターにゴミが付着していませんか？	P.149 P.150

撮影関連（撮影モード 、 、 、 、 、 、 ）

症状	ここをご確認ください	ページ
選択または設定できないメニュー項目がある	撮影モードによっては、設定できない機能があります。この場合、その項目は選択できません。	P.132

撮影関連（撮影モードP、S、A、M）

症状	ここをご確認ください	ページ
シャッターがきれない	• 非CPUレンズを装着している場合は、撮影モード**M**で撮影してください。 • 撮影モード**M**でシャッタースピードを または に設定し、そのまま撮影モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください。	P.55、138 P.53、56
設定できるシャッタースピードの範囲が狭い	フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。	P.164
シャッターボタンを半押ししても、フォーカスがロックされない	カスタムメニュー「**2：AFモードの選択**」が「**AF-C**」のときは、 ボタンを押してフォーカスをロックしてください。	P.41、114

症状	ここをご確認ください	ページ
画像の色合いがおかしい	• 撮影メニュー「**ホワイトバランス**」は正しく設定されていますか？ • 撮影メニュー「**仕上がり設定**」は正しく設定されていますか？	P.59、100 P.58、97
ホワイトバランスのプリセットデータが取得できない	被写体が明るすぎるか、暗すぎます。	P.102
ホワイトバランスのプリセットデータとして設定できない画像がある	D50以外のカメラで撮影した画像は、プリセットデータとして設定することはできません。	P.104
ホワイトバランスブラケティング撮影ができない	撮影メニュー「**画質モード**」が「**RAW**」または「**RAW＋BASIC**」のときは、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません。	P.37、122
仕上がり設定の効果が安定しない	「**仕上がり設定→カスタマイズ**」で、各項目を個別に設定してください。その際、「**輪郭強調**」と「**階調補正**」は「**オート**」以外にしてください。	P.97
測光モードが変更できない	AEロック中は測光モードを変更できません。	P.124
露出補正ができない	撮影モード**M**では露出補正はできません。	P.57
連写できない	• 内蔵フラッシュがポップアップしているときは、連写できません。 • カスタムメニュー「**12：オートブラケティング**」が「**OFF**」以外になっていませんか？	P.46 P.120

再生関連

症状	ここをご確認ください	ページ
RAW画像が表示されない	撮影メニュー「**画質モード**」を「**RAW＋BASIC**」にして撮影したときは、BASIC画像しか再生されません。	P.37
すべての画像が表示されない	再生メニュー「**再生フォルダー設定**」を「**全てのフォルダー**」にしてください。なお、「**全てのフォルダー**」にした後に撮影すると、「**再生フォルダー設定**」は自動的に「**記録中のフォルダー**」に変更されます。	P.108
画像の縦位置・横位置が正しく表示されない	• 再生メニュー「**縦位置自動回転**」が「**しない**」になっていませんか？ • セットアップメニュー「**姿勢情報記録**」が「**しない**」になっていませんか？ • 連写したときの縦横位置は、最初の１コマを撮影した構図で固定されます。 • カメラを上向き・下向きにして撮影すると、姿勢情報が正しく得られない場合があります。	P.109 P.95 P.95 P.95

症状	ここをご確認ください	ページ
画像が削除できない	• メモリーカードがロックされていませんか？ • 画像にプロテクトが設定されていませんか？	P.14 P.67
「撮影画像がありません」と表示される	メモリーカードを交換直後に画像を再生するときは、再生メニュー「**再生フォルダー設定**」を「**全てのフォルダー**」にしてください。	P.108
撮影後に画像が表示されない	カスタムメニュー「**5：撮影画像確認**」が「**OFF**」になっていませんか？	P.116
プリント指定ができない	• メモリーカードがロックされていませんか？ • メモリーカードの残量が不足していませんか？	P.14 P.84
ダイレクトプリントができない	セットアップメニュー「**USB設定**」が「**PTP**」になっていますか？	P.77、89
RAW画像をプリントできない	RAW画像はパソコンに転送してから、PictureProjectやNikon Capture（Ver.4.3以降）などのソフトウェアを使ってプリントしてください。	P.71、75
画像がテレビに映らない	セットアップメニュー「**ビデオ出力**」が正しく設定されていますか？	P.87
画像をパソコンに転送できない	セットアップメニュー「**USB設定**」が正しく設定されていますか？	P.72、89
ニコンキャプチャーのカメラコントロール機能が使えない	セットアップメニュー「**USB設定**」が「**PTP**」になっていますか？	P.72、89

その他

症状	ここをご確認ください	ページ
撮影日時が正しく表示されない	カメラの内蔵時計は合っていますか？　カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします。	P.12、86
表示されているメニュー項目が選択できない	一部のメニュー項目は、カメラの設定などの条件によって選択できない場合があります。	P.86
一部のメニュー項目が表示されない	セットアップメニュー「**メニュー表示切換**」を「**アドバンストメニュー**」にしてください。	P.86

警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、液晶モニターに表示される警告メッセージの意味は以下の通りです。

表示パネル	ファインダー	原因	対処方法	ページ
FEE（点滅）	FEE（点滅）	レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にする。	P.9
		バッテリー残量が残りわずかです。	バッテリー交換の準備をする。	P.10、18
（点滅）	（点滅）	まもなくバッテリーが無くなります。	バッテリーを交換する。	P.10、18
（点滅）	—	バッテリーを入れたことが、カメラに正しく認識されませんでした。	バッテリーを入れ直す。	P.11
CLOCK（点滅）	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定する。	P.12、86
Full 0（点滅）	Ful 0（点滅）	•メモリーカードの残量がありません。 •カメラが扱えるファイル数を超えています。	• 不要な画像を削除する。 • 画像をパソコンに転送する。 • 新しいメモリーカードに交換する。	P.68、108 P.71 P.14
-E-	（点滅）／-E-	メモリーカードが入っていません。	メモリーカードを入れる	P.14
F- -（点滅）	F- -（点滅）	レンズが装着されていないか、非CPUレンズが装着されています。	• CPUレンズ（IXレンズを除く）を装着する • 撮影モード**M**で撮影する。	P.9、138 P.55
—	●（点滅）	オートフォーカスでピント合わせができません。	構図を変えるか、マニュアル（手動）でピントを合わせる。	P.21、43
HI	HI	被写体が明るすぎて、カメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を低くする。 • シャッタースピードをより高速側にする。 • 絞りを絞り込む（より大きい数値にする）。 • 別売のND（光量調節用）フィルターを使う。	P.48 P,49 P.49 P.148
Lo	Lo	被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	• ISO感度を高くする。 • フラッシュを使う。 • シャッタースピードをより低速側にする。 • 絞りを開ける（より小さい数値にする）。	P.48 P,44 P.49 P.148

表示パネル	ファインダー	原因	対処方法	ページ
（点滅）	（点滅）	i-TTL調光に対応していないスピードライトの調光モードが、TTLモードになっています。	スピードライトの調光モードを変更する。	P.144、163
—	（点滅）	• 露出不足になる恐れがあります。 • 発光直後に約3秒間点滅した場合は、露出不足の恐れがあります。	• フラッシュを使う。 • 撮影距離、絞り、調光範囲、ISO感度などを確認する。	P.44 —
bulb（点滅）	bulb（点滅）	撮影モード**M**でシャッタースピードをbulbにしたまま、撮影モードを**S**にしました。	• シャッタースピードを変える。 • 撮影モードを**M**に変える。	P.53 P.55
- -（点滅）	- -（点滅）	撮影モード**M**で2秒または瞬時リモコンモードに設定し、シャッタースピードを- -にしたまま、撮影モードを**S**にしました。	• シャッタースピードを変える。 • 撮影モードを**M**に変える。	P.53 P.55
Err（点滅）	Err（点滅）	撮影中に何らかの異常を検出しました。	• もう一度シャッターボタンを押す。 • 警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービスセンターにご相談ください。	—

液晶モニター	表示パネル／ファインダー	原因	対処方法	ページ
カードが入っていません	[-E-]	メモリーカードが入っていないか、正しく挿入されていません。	メモリーカードを正しく挿入する。	P.14
このカードは使用できません	[CHA] （点滅）	• メモリーカードへのアクセス異常です。 • カードのフォーマットが異なります。 • 新規フォルダーが作成できません。	• D50用のメモリーカードであることを確認する。 • メモリーカードを再フォーマットする。状況が改善しない場合は、メモリーカードが壊れている可能性があります。ニコンサービスセンターにご相談ください。 • 不要な画像を削除する。 • メモリーカードを交換する。	P.148 P.86 P.68、108 P.14
このカードはフォーマットされていません	[For] （点滅）	メモリーカードが正しくフォーマットされていません。	メモリーカードをカメラでフォーマットする。	P.86
撮影画像がありません	—	• 撮影画像がありません。 • 「**再生フォルダー設定**」を「**記録中のフォルダー**」に設定して、メモリーカードを交換した後、撮影を行わずに画像を再生しようとしました。	• 画像が記録されているメモリーカードに交換する。 • 「**再生フォルダー設定**」を「**全てのフォルダー**」にする。	P.14 P.108
このファイルは表示できません	—	• パソコンで編集した画像など、DCF規格の画像ファイルではないため、再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。		—
カードがロックされています	CHA、 [0] （点滅）	メモリーカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	メモリーカードのロックを解除する。	P.14

資料集

画質モード・画像サイズと撮影・連写可能コマ数（P.27、36）

画質モードと画像サイズの組み合わせによって、256MBのメモリーカードで撮影できるおおよそのコマ数、および連写できるコマ数は次のようになります。ただし、カードの種類や撮影条件よって、撮影可能コマ数は増減することがあります。

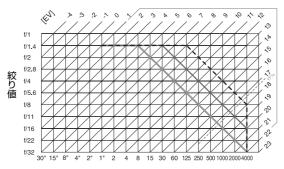
画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	撮影可能コマ数	連写可能コマ数※1	撮影メニュー「ノイズ除去」(P.99)を「する」にしたときの連写可能コマ数※1
RAW	―	約5.0MB	33	4	3
FINE	L	約2.9MB	70	9	7
	M	約1.6MB	123	10	8
	S	約0.8MB	258	19	17
NORMAL	L	約1.5MB	137	12	10
	M	約0.8MB	233	16	14
	S	約0.4MB	464	27	25
BASIC	L	約0.8MB	258	19	17
	M	約0.4MB	423	27	25
	S	約0.2MB	770	49	47
RAW+BASIC	―／L	約5.8MB※2	29	4	3

※1 SDカードへの記録が終わったコマ数分だけ、引き続き次の撮影が行えます。

※2 RAW画像とBASIC画像の合計です。

撮影モード**P**のプログラム線図（P.52）

以下のグラフは、撮影モード**P**の露出制御プログラム（ISO200の場合）を表しています。

(灰色太線)	f（レンズの焦点距離）≦55mmの場合
(実線)	55mm＜f≦135mmの場合
(破線)	135mm＜fの場合

- ISO感度に応じた測光範囲によって、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO200の場合17⅓を超えるEV値は、すべて17⅓として制御されます。

フラッシュ撮影時の発光量制御について（P.46、142）

CPUレンズをお使いの場合、内蔵フラッシュの発光量は、以下の2種類の制御方式のどちらかで決定されます。通常はi-TTL-BL調光ですが、カスタムメニュー「**13：測光モード**」（P.124）を「**スポット測光**」にした場合は、スタンダードi-TTL調光になります。

i-TTL-BL調光	マルチパターン測光による測光情報を元に、メインの被写体と背景のバランスを考慮して発光量を決定します。
スタンダードi-TTL調光	背景の明るさを考慮せず、メインの被写体を基準にして発光量を決定します。メインの被写体の明るさを重視する場合や、露出を補正する場合に適しています。

別売スピードライトSB-800、SB-600をお使いの場合も、内蔵フラッシュと同様に、通常はi-TTL-BL調光に、カスタムメニュー「**13：測光モード**」（P.124）を「**スポット測光**」にすると、スタンダードi-TTL調光になります。

内蔵フラッシュ撮影時のシャッタースピード制限（P.44）

オート	1/500～1/60秒
ポートレート	1/500～1/60秒
こどもスナップ	1/500～1/60秒
クローズアップ	1/500～1/125秒
夜景ポートレート	1/500～1秒

P	1/500～1/60秒
S	1/500～30秒
A	1/500～1/60秒
M	1/500～30秒

内蔵フラッシュの調光範囲（P.44）

調光範囲（光が届く距離）はISO感度と絞り値によって異なります。

	ISO感度				調光範囲（m）
	200	400	800	1600	
絞り値	2	2.8	4	5.6	約1～7.5
	2.8	4	5.6	8	約0.7～5.4
	4	5.6	8	11	約0.6～3.8
	5.6	8	11	16	約0.6～2.7
	8	11	16	22	約0.6～1.9
	11	16	22	32	約0.6～1.4
	16	22	32	—	約0.6～0.9
	22	32	—	—	約0.6～0.7

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- DPOF (Digital Print Order Format)：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif Version 2.21：(Exif＝Exchangeable image file format for digital still cameras)：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報をいかして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。

主な仕様

型式		レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
画素数		有効画素：6.1 メガピクセル
撮像素子		23.7×15.6mmサイズ　総画素数：6.24 メガピクセル
	記録画素数	3008×2000 ピクセル（L）、2256×1496 ピクセル（M）、1504×1000 ピクセル（S）
レンズマウント		ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付き）
交換レンズ		
	GまたはDタイプレンズ	全機能を使用可（IXニッコールを除く）
	PCマイクロニッコール 85mm F2.8D	オートフォーカスと露出モードの一部を除く機能を使用可
	GまたはDタイプ以外のAFレンズ	3D-RGBマルチパターン測光Ⅱを除く機能使用可（F3AF用を除く）
	AI-Pニッコール	3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ、オートフォーカスを除く機能使用可
	非CPUレンズ	撮影モード**M**で使用可（露出計は使用不可）、開放F値がf/5.6より明るい場合フォーカスエイド可
実撮影画角		レンズ表記の約1.5倍の焦点距離レンズに相当
ファインダー		ミラーペンタ式一眼レフレックスファインダー
	視度調節機構	-1.6～$+0.5\mathrm{m}^{-1}$
	アイポイント	18 mm（$-1.0\mathrm{m}^{-1}$のとき）
	ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンV（フォーカスフレーム付）
	ファインダー視野率	上下左右とも約95％（対実画面）
	ファインダー倍率	約0.75倍（50mm F1.4レンズ・∞・$-1.0\mathrm{m}^{-1}$のとき）
ミラー		クイックリターン式
レンズ絞り		瞬間復元式、電子制御式
フォーカスエリア		5箇所から1箇所を選択可能
レンズサーボ		オートフォーカス：シングルAFサーボ（AF-S）、コンティニュアスAFサーボ（AF-C）、AF-S/AF-C自動切り換え（AF-A）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 マニュアルフォーカス可能

オートフォーカス			TTL位相差検出方式、マルチCAM900オートフォーカスモジュールにより検出、AF補助光付（約0.5～3m）
	検出範囲		EV－1～＋19（ISO100換算、常温［20℃］）
	AFエリアモード		シングルエリアAFモード、ダイナミックAFモード、至近優先ダイナミックAFモード
	フォーカスロック		AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押しによって可能

露出			
	測光方式		TTL開放測光方式
		マルチパターン測光	420分割RGBセンサーにより、Gタイプ、Dタイプレンズ使用時は3D-RGBマルチパターン測光Ⅱが、その他のCPUレンズ使用時はRGBマルチパターン測光Ⅱが可能
		中央部重点測光	φ8mm相当を測光（中央部重点度約75％）
		スポット測光	約φ3.5mm相当を測光（全画面の約2.5％）、フォーカスエリアに連動して測光位置可動
	測光範囲		EV0～20（マルチパターン測光、中央部重点測光） EV2～20（スポット測光） （ISO100換算、常温20℃、F1.4レンズ使用時）
	露出計連動		CPU連動方式
	撮影モード		11種：AUTO：オート、：ポートレート、：風景、：こどもスナップ、：スポーツ、：クローズアップ、：夜景ポートレート、**P**：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能）、**S**：シャッター優先オート、**A**：絞り優先オート、**M**：マニュアル
	露出補正		±5段の範囲で1/3、1/2段刻みで補正可能
	オートブラケティング		撮影コマ数：3コマ 補正量：±2段まで（AEフラッシュブラケティング）、 ±3段まで（ホワイトバランスブラケティング）
	AEロック		AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式

シャッター		CCD電子シャッターと機械式シャッターの併用
	シャッタースピード	30～1/4000秒（1/3、1/2段刻み）、bulb、タイム

撮像感度	ISO 200～1600相当（1段刻み）
ホワイトバランス	オート（420分割RGBセンサー、撮像素子併用によるホワイトバランス）、マニュアル6種、プリセット可能、ホワイトバランスブラケティング可能

項目		仕様
内蔵フラッシュ		撮影モード 、、、、： オートポップアップ方式による自動発光 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**： 押しボタン操作による手動ポップアップ方式
	ガイドナンバー	約15（マニュアルフル発光時約17）（ISO200・m、20℃）／ 約11（マニュアルフル発光時約12）（ISO100・m、20℃）
調光		
	シンクロ同調	X接点（半導体方式）、1/500秒以下の低速シャッタースピードでフラッシュと同調
	調光方式	420分割RGBセンサーによる次のTTL調光制御： - 内蔵フラッシュ、SB-800、SB-600のいずれかと、CPUレンズとの組み合わせ時は、i-TTL-BL調光。同じ条件で測光モードをスポット測光にした場合、スタンダードi-TTL調光（SB-800、SB-600側でも設定可能） 絞り連動自動調光：SB-800とCPUレンズとの組み合わせ時 外部調光：SB-800、SB-80DX、SB-28DX、SB-28、SB-27、SB-22Sなどとの組み合わせ時 距離優先マニュアル調光：SB-800との組み合わせ時
	フラッシュモード	撮影モード 、、、： 「通常発光オート」、「赤目軽減オート」（別売スピードライト使用時は「通常発光」、「赤目軽減」） 撮影モード ： 「通常発光オート＋スローシャッター」、「赤目軽減オート＋スローシャッター」（別売スピードライト使用時は「通常発光＋スローシャッター」、「赤目軽減＋スローシャッター」） 撮影モード 、： 別売スピードライト装着時に「通常発光」、「赤目軽減」 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**： 「通常発光」、「通常発光＋スローシャッター」、「赤目軽減」、「赤目軽減＋スローシャッター」、「後幕発光」
	調光補正	－3～＋1段の範囲で1/3、1/2段刻みで補正可能
	アクセサリーシュー	ホットシュー付：シンクロ接点、レディ信号接点、モニタ信号接点、TTL調光ストップ信号接点、GND付、セーフティロック機構（ロック穴）付
	ニコン クリエイティブライティングシステム	内蔵フラッシュ、SB-800、SB-600との組み合わせにより発光色温度情報伝達、FVロックに対応 SB-800、SB-600との組み合わせによりアドバンストワイヤレスライティングに対応

記録		
	記録媒体	SDメモリーカード
	記録画像ファイル形式	Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0準拠、Digital Print Order Format（DPOF）準拠
	圧縮	• 12ビット圧縮RAW（約50%～70%圧縮） • JPEG baseline準拠

セルフタイマー	作動時間2、5、10、20秒に設定可能
液晶モニター	2.0型低温ポリシリコンTFT液晶、約13万画素、明るさ調整可能
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能
外部インターフェース	USB2.0 Hi-Speed
三脚ネジ穴	1/4（ISO1222規格）
ファームウェアバージョンアップ	ユーザーによるファームウェアバージョンアップ可能
表示言語	ドイツ語、英語、スペイン語、フランス語、イタリア語、オランダ語、ポルトガル語、ロシア語、スウェーデン語、繁体中国語、簡体中国語、日本語、韓国語
電源	• Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3a：電圧7.4V DC［クイックチャージャー MH-18a］または［マルチチャージャー MH-19］（別売）使用 • ACアダプター EH-5（別売）
寸法（W×H×D）	約133×102×76mm
質量	約540g（バッテリー、メモリーカード、ボディキャップを除く）

動作環境		
	温度	0～40℃
	湿度	85%以下（結露しないこと）

クイックチャージャー MH-18a	
電源	AC 100～240V（50/60Hz）
充電出力	DC 8.4V/900mA
適応電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3a
充電時間	約135分
使用温度	0～＋40℃
寸法	約58mm（幅）×90mm（奥行き）×35mm（高さ）
コード長	約1800mm
質量（重さ）	約80g（電源コードを除く）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3a	
形式	リチウムイオン電池
定格容量	7.4V ／ 1500mAh
寸法	約39.5mm（幅）×56mm（奥行き）×21mm（高さ）
質量（重さ）	約80g（端子カバーを除く）

レンズAF-S DX 18～55mm f/3.5～5.6G ED

項目	仕様
型式	ニコンFマウントCPU内蔵Gタイプ、AF-S DX ニッコールズームレンズ（ニコンデジタル一眼レフカメラ［ニコンDXフォーマット］専用）
焦点距離	18mm～55mm
最大口径比	1:3.5～5.6
レンズ構成	5群7枚（EDレンズ1枚、非球面レンズ1枚）
画角	76°～28° 50′
焦点距離目盛	18、24、35、45、55mm
撮影距離情報	カメラボディへの撮影距離情報出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
最短撮影距離	0.28m（ズーム全域）
絞り方式	自動絞り
絞りの範囲	焦点距離18mm時 f/3.5～22、55mm時 f/5.6～38
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	52mm（P＝0.75mm）
寸法	約69mm（最大径）×74mm（バヨネット基準面からレンズ先端まで）
質量（重さ）	約210g
レンズフード（別売）	フード HB-33 ＜レンズフードの取り付け方＞

✓ 仕様についてのご注意

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（20℃）、フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

✓ 連続撮影コマ数（電池寿命）についてのご注意

参考値：Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3a（1500mAh）による連続撮影コマ数（電池寿命）の目安※

※充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

- 測定条件は当社条件（常温＜20℃＞）によります。
- 記載されている数値は下記の当社試験条件によるものです。撮影状況により数値は増減します。

1) 約2500コマ：装着レンズAF-S DX 18～55mm f/3.5～5.6G ED、(連写）モード、フォーカスモードAF-C、画質モードBASIC、画像サイズM、シャッタースピード1/250秒でシャッターの半押しを3秒間持続させた後、無限遠から至近間を3往復し、6回連続レリーズした後、液晶モニターを5秒間点灯。消灯後、半押しタイマーがオフになるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。
2) 約500コマ：装着レンズAF-S DX 18～55mm f/3.5～5.6G ED、S（1コマ撮影）モード、フォーカスモードAF-S、画質モードNORMAL、画像サイズL、シャッタースピード1/250秒でシャッターの半押しを5秒間持続させた後、無限遠から至近間を1往復し、1回レリーズ（2回に1回は内蔵フラッシュをフル発光）した後、半押しタイマーがオフになるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。

注1）内蔵フラッシュ発光時にはAF補助光を発光させる。
注2）10コマ撮影後、カメラの電源を1分間OFFにする。

以下の場合はバッテリーの消耗が速くなります：

- 液晶モニターを使用した場合、シャッターボタンの半押しを続けた場合、オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合、画質モードRAW、RAW＋BASICで撮影した場合、低速シャッタースピードで撮影した場合

バッテリーの性能を最大限に発揮させるため、次のことにご注意ください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使わないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

✓ 使用説明書の再発行についてのご案内

使用説明書を紛失した場合は、新しい使用説明書をニコンサービスセンターでお求めください（有料）。

索引

（太字はメニュー項目を示しています）

記号

AUTO → オート（撮影モード）
→ ポートレート（撮影モード）
→ 風景（撮影モード）
→ こどもスナップ（撮影モード）
→ スポーツ（撮影モード）
→ クローズアップ（撮影モード）
→ 夜景ポートレート（撮影モード）
→ レディーライト
EL → AEロック
FL → FVロック
BKT → オートブラケティング
→ 露出補正
→ 調光補正
CLOCK（時刻未設定） → 日時設定
WB → ホワイトバランス
、 → セルフタイマー／リモコンモード
P* → プログラムシフト
S、 → 単写／連写モード

英数

AE/AFロックボタン（カスタムメニュー） 127
AEフラッシュブラケティング → オートブラケティング
AEロック 7、125、129
AF-A、AF-C、AF-S → AFモードの選択
AFエリアモード設定（カスタムメニュー） 115
AF補助光 3、41、117
AFモード → AFモードの選択
AFモードの選択（カスタムメニュー） 114
AFロック → フォーカスロック
BASIC → 画質モード
Bulb → 長時間露光
DPOF 75、80、83、164
Exif Version 2.21 164
FINE → 画質モード
FVロック 7、127
ISO感度 6、7、48、118、119
ISO設定（撮影メニュー） 48
JPEG 37、39
Mass Storage → USB設定
NEF 37、39

付録　索引

Nikon Capture 4　71、93、148
NORMAL　→　画質モード
PictBridge　76、164
PictureProject　1、71、73
PC　→　パソコンとの接続
PTP　→　USB設定
RAW　→　画質モード
SDメモリーカード　→　メモリーカード
USB　3、71～74、76、89
USB設定（セットアップメニュー）　89
WBブラケティング　→　オートブラケティング
1コマ表示モード　62
2秒リモコン撮影　→　リモコン撮影

あ

赤目軽減　44
アドバンストメニュー　→　**メニュー表示切換**
色合い調整　→　仕上がり設定
印刷　→　プリント
インターバル設定　→　スライドショー
インデックス印刷　→　ダイレクトプリント
液晶モニター　4、30、32～35、62～68、87、130
液晶モニターパワーオフ（カスタムメニュー）130
オート（撮影モード）　18
オートフォーカス　19、21、40～42、114、115、127
オートブラケティング（カスタムメニュー）　120

か

カードフォーマット（セットアップメニュー）　86
カード無時レリーズ（カスタムメニュー）　116
階調補正　→　仕上がり設定
拡大表示　66、107
画質モード（撮影メニュー）　37
カスタムメニュー　32、86、112
画像コメント（セットアップメニュー）　88
画像サイズ（撮影メニュー）　38
画像ファイル　36～39、162
画面の明るさ（セットアップメニュー）　87
カラー設定　→　仕上がり設定
感度　→　ISO感度
感度自動制御（カスタムメニュー）　119
感度自動設定（カスタムメニュー）　118
記録フォルダー設定（セットアップメニュー）　90
クリーニングミラーアップ（セットアップメニュー）　150
クローズアップ（撮影モード）　26

言語（セットアップメニュー） 87
構図 20、40～42、95、125、127
こどもスナップ（撮影モード） 25
コンティニュアスAFサーボ（AF-C） → AFモードの選択

さ

再生 30、62、106
再生フォルダー設定（再生メニュー） 108
再生メニュー 32、106
彩度設定 → 仕上がり設定
削除（再生メニュー） 108
削除 30、62、68、108
撮影画像確認（カスタムメニュー） 116
撮影可能コマ数 6、7、19、27、162
撮影情報 63
撮影メニュー 32、96
撮影モード 8
撮影モードダイヤル 3、8
サムネイル表示モード 65
仕上がり設定（撮影メニュー） 58、97
至近優先ダイナミック → AFエリアモード設定
時刻 12、86
姿勢情報記録（セットアップメニュー） 95
視度調節 4、17
絞り 6、7、49～56
絞り優先オート（撮影モード） 54
シャッタースピード 6、7、49～56、119
シャッター優先オート（撮影モード） 53
瞬時リモコン撮影 → リモコン撮影
初期化 → カードフォーマット
初期設定 iii、61、113、132、134
シングル → AFエリアモード設定
シングルAFサーボ（AF-S） → AFモードの選択
シンプルメニュー → **メニュー表示切換**
ズーム 5、20
スピードライト 142～146
スポーツ（撮影モード） 26
スポット測光 124
スモールピクチャー（再生メニュー） 111
スライドショー（再生メニュー） 110
セットアップメニュー 32、85
セルフタイマー（カスタムメニュー） 130
セルフタイマー撮影 28
セルフタイマー／リモコンモード 3、6、28
測光モード（カスタムメニュー） 124

た

ダイナミック → AFエリアモード設定
ダイレクトプリント 58、76、83
ダストオフデータ取得（セットアップメニュー） 93
縦位置自動回転（再生メニュー） 109
単写 → 単写／連写モード
単写／連写モード 4、6、27、162
中央部重点測光 → 測光モード
調光範囲 23、164
調光補正 47
長時間露光（バルブ） 56
ツーボタンリセット 61、132、134
テレビ 69、87
電源 3、7、18
電子音設定（カスタムメニュー） 113
トリミング → ダイレクトプリント

な

内蔵AF補助光（カスタムメニュー） 117
内蔵フラッシュ発光（カスタムメニュー） 129
日時設定（セットアップメニュー） 12、86
ノイズ除去（撮影メニュー） 99

は

ハイライト表示 64
パソコンとの接続 71
バッテリー 4、6、7、10、18、147
バルブ → 長時間露光
半押し 21、41、114、129、130
半押しAEロック（カスタムメニュー） 129
半押しタイマー（カスタムメニュー） 130
ピクトブリッジ → PictBridge
非CPUレンズ 138
ヒストグラム表示 64
日付 12、79、81、84、86
ビデオ出力（セットアップメニュー） 87
表示パネル 3、6、130
ピント 7、21、40、43、114、115
ファームウェアバージョン（セットアップメニュー） 95
ファインダー 4、7、17、20、117
ファイル名 39、63、92
風景（撮影モード） 25
フォーカスエイド 43
フォーカスエリア 7、20、21、40、115、117
フォーカスエリア照明（カスタムメニュー） 117

フォーカスモード　→　AFモードの選択
フォーカスロック　41、127、129
フラッシュ　3、23、25、44、116、120、127、129、142、163、164
フラッシュ調光補正（カスタムメニュー）　116
フラッシュモード　6、23、44
プリセットホワイトバランス　100
プリンター　→　ダイレクトプリント
プリント　75
プリント指定（再生メニュー）　83、111
プログラムオート（撮影モード）　52
プログラムシフト　52
プロテクト　67
ヘルプ　32
ポートレート（撮影モード）　25
ホワイトバランス（撮影メニュー）　59、100
ホワイトバランスブラケティング　→　オートブラケティング

ま

マニュアル（撮影モード）　55
マニュアル発光モード　→　内蔵フラッシュ発光
マニュアルフォーカス　43
マルチパターン測光　→　測光モード
メニュー　32、85～131
メニュー表示切換（セットアップメニュー）　86
メモリーカード　4、6、7、14、19、36、75、86、116、148

や

夜景ポートレート（撮影モード）　26

ら

リセット（カスタムメニュー）　113
リモコン撮影　28
リモコン待機時間（カスタムメニュー）　131
輪郭強調　→　仕上がり設定
レディーライト　7、23
レンズ　5、9、138
連写　→　単写／連写モード
連続撮影　→　単写／連写モード
連番モード（セットアップメニュー）　92
ローパスフィルター　150
露出インジケーター　56、57
露出値ステップ幅（カスタムメニュー）　120
露出補正　57

アフターサービスのご案内

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理についてご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

●お願い

- 次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上、お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAX または郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービスセンターにご依頼ください。

- ニコンサービスセンターにつきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご参照ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店またはニコンサービスセンターにご相談ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後 7 年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後でも修理可能な場合がありますので、ご購入店またはニコンサービスセンターへお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービスセンターにお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社 Web サイトでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行
FAX:03－5977－7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：	年　月　日
お買い上げ日：	年　月　日
製品名：	シリアル番号：
フリガナ お名前：	
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL: FAX:	
ご使用のパソコンの機種名： メモリ容量： OSのバージョン： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：	 ハードディスクの空き容量： ご使用のインターフェースカード名：
問題が発生したときの症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）	

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方と修理に関するお問い合わせ

<ニコンカスタマーサポートセンター>

全国共通
☎0570-02-8000
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30〜18:00（年末年始、夏期休暇等を除く毎日）
携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033** におかけください。
FAXでのご相談は、**03-5977-7499** におかけください。

音声によるご案内に従い、ご利用窓口の番号を入力してください。お問い合わせ窓口の担当者がご質問にお答えいたします。

ニコン宅配修理サービスのご案内

修理品梱包資材のお届けから修理品のお引き取り、修理後の製品のお届けまでのサービスは下記をご利用ください。（有料サービス）

<ニコン宅配修理サービスお申し込み専用窓口>

0120 FreeDial ☎0120-868-545

携帯電話やPHS等からのご利用はできません。
営業時間：9:30〜17:30（土・日・祝日を除く毎日）年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

なお、上記フリーダイヤルでは宅配修理サービス関連以外のご案内は行っておりません。

株式会社 ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

SB5G04(10)
6MBA4210-04